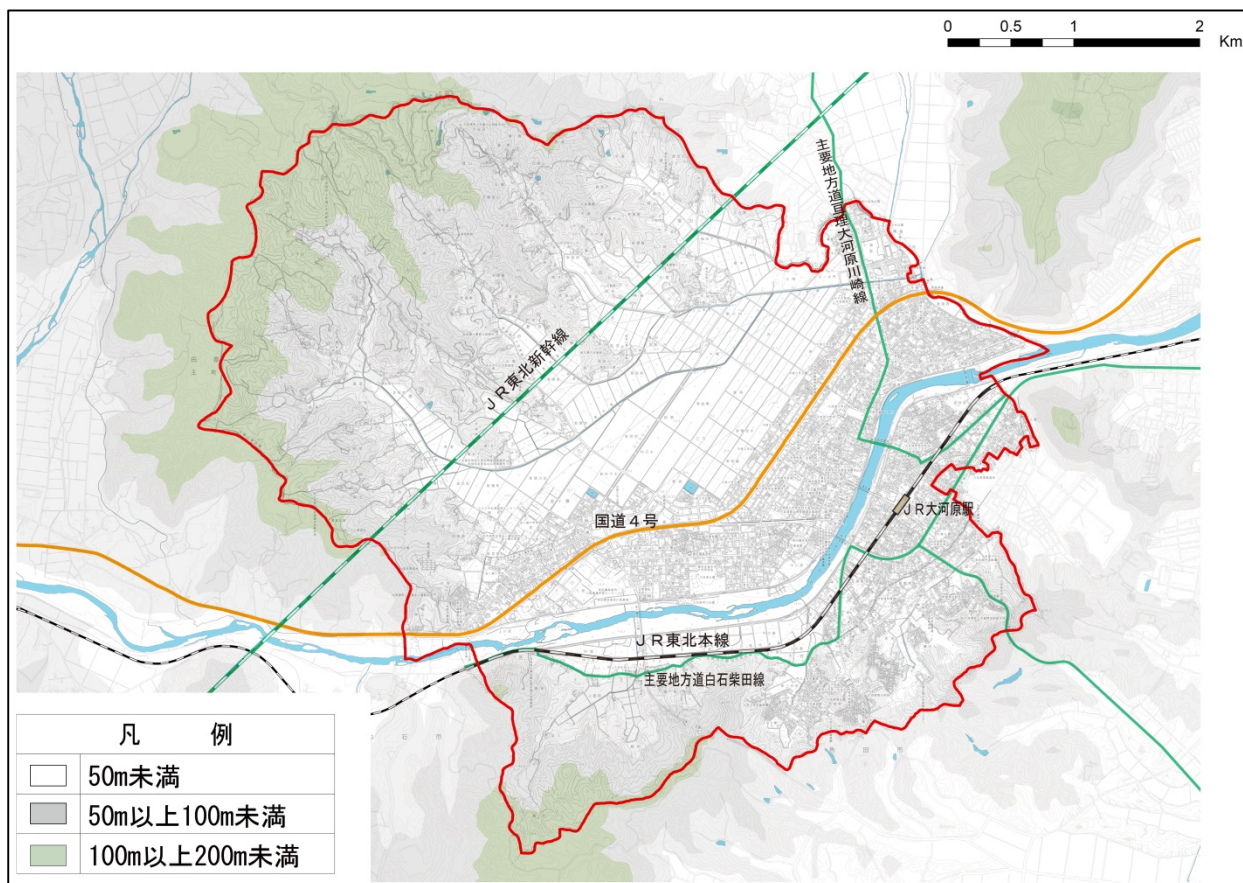


第3章 都市の現況整理

1. 自然的条件

(1) 地形

本町の中央部は概ね標高50m未満の平地となっており、北西側と南側が一部標高100m以上の丘陵地となっています。

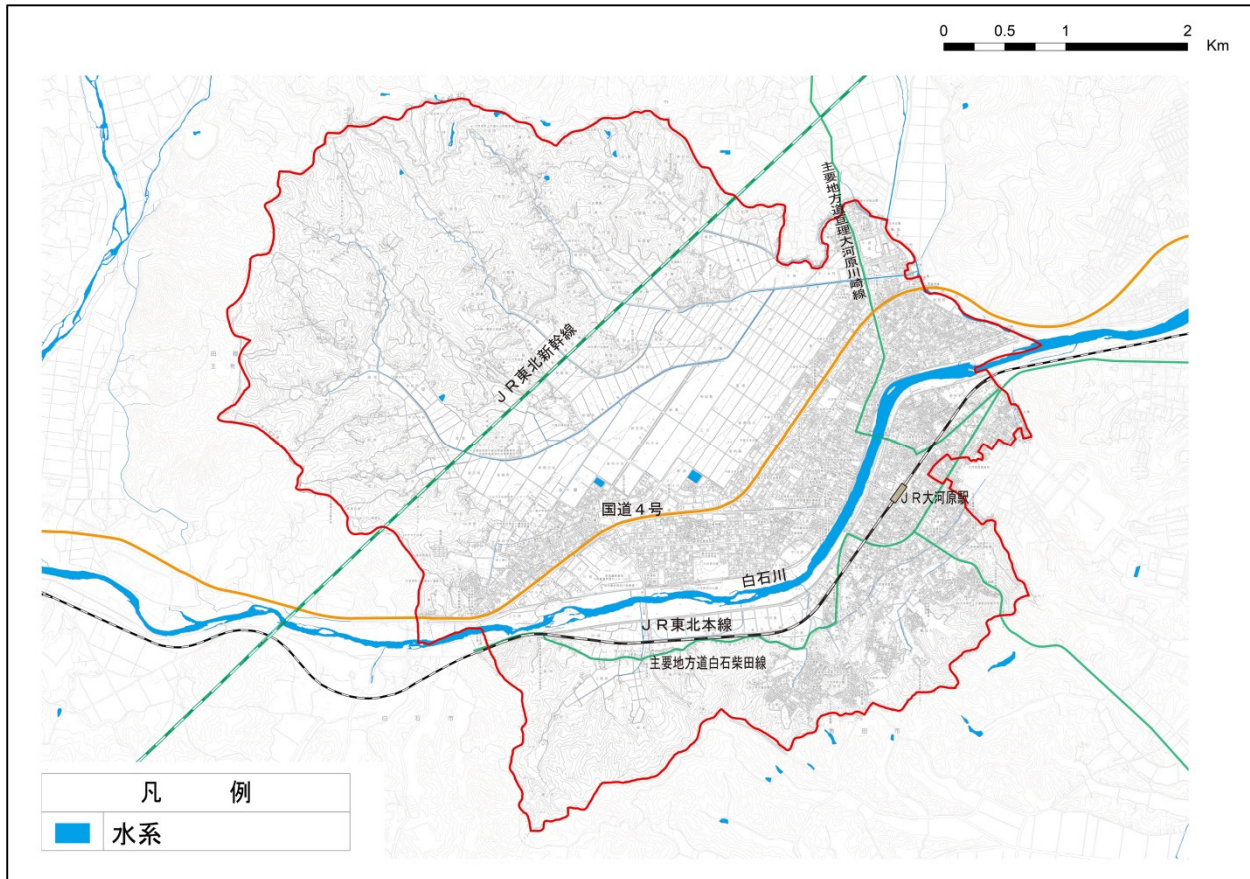


出典：「国土数値情報」（平成21年 国土地理院）

図 3-1 地形分類図

(2) 水系

本町の中央部を一級河川の阿武隈川水系白石川が横断しています。北西部では、丘陵地の谷筋から農地にかけて水路が保たれています。



出典：「国土数値情報」（平成19年 国土地理院）

図 3-2 水系分布図

(3) 気象

本町に気象観測所はないものの、最寄りの気象観測所として白石地域気象観測所（住所：宮城県白石市福岡長袋字湯殿山13 北緯38° 00.9′ /東経140° 36.7′ 海拔86m）があり、この地域の「降水量」、「気温」、「風速」、「日照時間」などを観測しています。

白石地域気象観測所における最近10年間の気象の概況を表3-1に、平成28年の気象の概況を表3-2に、気温、降水量、平均風速、日照時間等の月変化を図3-3に示します。

表3-1 気象の概況(平成19年～平成28年)

年	気温(℃)			気温極値(℃)				総降水量(mm)	平均風速(m/s)	日照時間(h)
	平均	日最高	日最低	最高		最低				
				起日	起日					
平成19年	12.5	17.4	8.2	35.9	8月15日	-7.9	2月25日	1,584	2.2	1,730.6
平成20年	11.9	16.7	7.7	34.5	8月7日	-7.1	1月22日	1,148	2.2	1,514.3
平成21年	12.2	17.0	7.9	33.6	7月15日	-5.1	2月22日	1,140	2.4	1,539.9
平成22年	12.5	17.4	8.2	35.3	8月24日	-7.4	2月4日	1,444	2.4	1,578.9
平成23年	11.9	16.8	7.5	34.5	8月1日	-7.3	1月30日	1,140	2.4	1,838.7
平成24年	11.5	16.2	7.5	34.9	8月17日	-10.5	2月28日	1,267	2.4	1,709.9
平成25年	11.7	16.5	7.3	34.3	8月19日	-10.1	2月25日	1,152	2.5	1,764.8
平成26年	11.8	16.7	7.3	35.3	8月5日	-7.8	2月13日	1,501	2.5	1,904.3
平成27年	12.6	17.4	8.1	35.8	8月5日	-6.9	1月21日	1,342	2.4	1,951.5
平成28年	12.5	17.4	8.2	34.0	8月5日	-7.0	2月4日	1,356	2.4	1,791.4
平均	12.1	17.0	7.8					1,307	2.4	1,732.4

出典:「大河原町統計書」(平成29年 大河原町)

気温：平均気温は、月平均気温の年間における平均値。最高(低)気温は、月最高(低)気温の年間における平均値。気温極値;最高(低)気温は、年間における最高(低)値。

総降水量：月合計降水量の年間における合計値。

平均風速：月平均風速の年間における平均値。

日照時間：月合計日照時間の年間合計値。

表3-2 気象の概況(平成28年)

月	気温(℃)			気温極値(℃)				総降水量(mm)	平均風速(m/s)	日照時間(h)
	平均	最高	最低	最高		最低				
				起日	起日					
1月	1.7	5.5	-2.2	13.8	4日	-5.8	26日	83.5	3.0	138.6
2月	2.6	7.5	-2.0	19.6	14日	-7.0	8日	16.0	3.2	169.3
3月	6.0	12.0	0.5	21.0	18日	-5.4	12日	11.5	2.7	195.6
4月	11.1	16.6	5.6	22.5	26日	-0.8	12日	150.5	2.9	178.4
5月	16.5	21.8	11.2	30.3	23日	6.2	15日	96.5	2.2	191.8
6月	19.2	23.6	15.4	28.9	10日	7.2	3日	149.5	2.0	132.0
7月	21.9	26.1	18.6	31.1	30日	15.6	5日	72.0	1.4	98.5
8月	24.2	28.8	20.5	34.0	5日	15.7	13日	411.0	1.9	153.9
9月	20.8	24.4	18.0	33.1	6日	9.1	30日	246.0	1.3	84.7
10月	14.0	19.8	8.4	26.4	4日	1.7	24日	35.5	2.2	167.1
11月	7.1	12.3	2.3	20.8	20日	-4.1	25日	41.5	2.3	139.9
12月	4.8	9.8	-0.1	17.0	22日	-4.2	25日	46.0	3.1	141.6

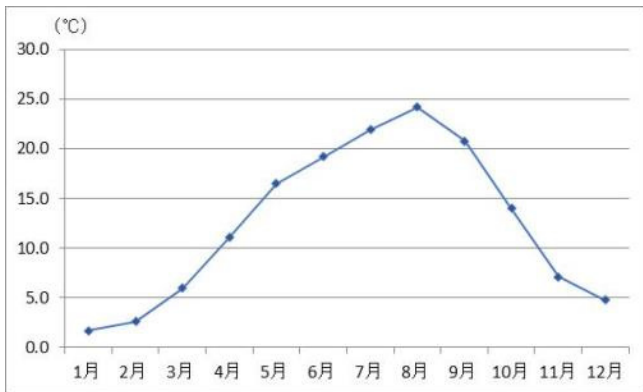
出典:「大河原町統計書」(平成29年 大河原町)

気温：平均気温は、月平均値。最高(低)気温は、日最高(低)気温の月平均値。気温極値;最高(低)気温は、月間における最高(低)値。

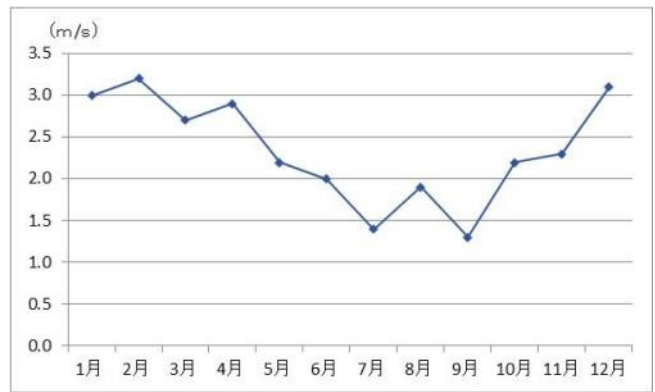
総降水量：月合計降水量

平均風速：月平均値

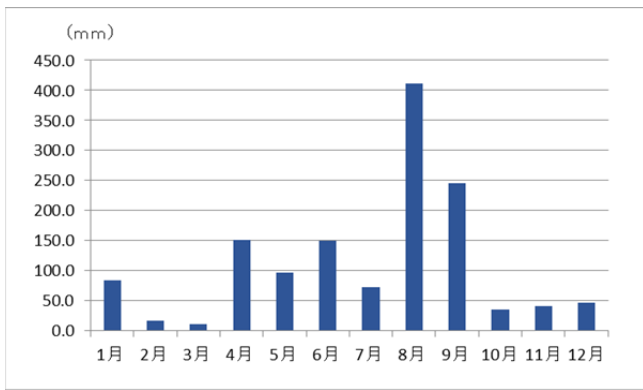
日照時間：月合計日照時間



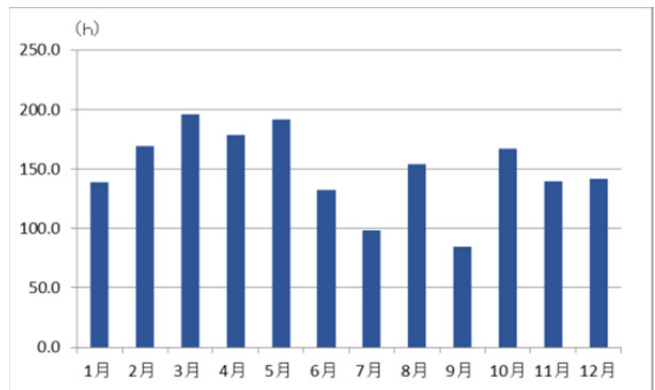
気温



平均風速



降水量



日照時間

出典:「大河原町統計書」(平成29年 大河原町)

図 3-3 気象の月変化(平成28年)

2. 歴史

(1) 町の沿革

本町には縄文時代早期（約6000年前）から人が住み始め、4～5世紀頃には小島地区に前方後円墳（嶋館古墳）が造られるなど、この地域に有力な豪族がいたと推測されています。

平安時代の遺跡である中屋敷前遺跡からは、発掘調査により瓦葺きの礎石建物が建っていたことが確認され、柴田郡衙（古代の役所）に関連した建物と推測されることから、この時代から柴田郡の中心地であったことをうかがい知ることができます。

江戸時代になると奥州街道の宿場町となり、米や紅花の集積地として栄え、大河原は仙台藩の直轄地として代官所や藩主の宿泊施設であった御仮屋が置かれるようになっていきました。

明治時代以降は、国や県の出先機関が置かれ官庁の町として発達し、昭和31年9月に大河原町と金ヶ瀬村が合併して、現在の大河原町が誕生しました。

町章



町の頭文字「大」を明快に図形化したものです。円は仙南の行政・交通・文化の中心地と町民の融和・団結を表し、鳥形の「大」は町勢の力強い飛躍的發展伸長を象徴したものです。

町の花：桜



全国的にも桜の名所として有名。調和のとれた町づくりを表す花びらは、町の春を彩ります。

町の木：梅



大河原近辺は、昔「梅が枝莊」と呼ばれるほど梅の木が多く、身近な所に手軽に植えられるため、町の産業として地域おこしにも活躍しています。

町の鳥：白鳥



大高山神社には、白鳥大明神が奉られています。川を中心とする町のイメージにもよく合い、飛来と同時にやすらぎを運んで来ています。

出典：「大河原町ホームページ」（平成29年 大河原町）

(2) 歴史的文化遺産

本町には、文化財保護法に基づく国指定の重要文化財1件、登録有形文化財1件と町指定の文化財2件及び町指定の無形民俗文化財が2件あり、町の文化的な豊かさを今に伝えています。

表 3-3 文化財の指定・登録状況

<p>国指定重要文化財</p>	<p>大高山神社 鰐口</p>	<p>昭和43年4月25日指定</p>
	<p> 鑄鋼 面直径 43cm 肩幅 13cm 重量 32.5kg 鎌倉時代中期の正応6年（1293）の奉納で、東北最古の銘記で貴重品です。銘記文の意味はこの地方の地頭の息子の長寿延命を願って、当時大高山神社の法印であった法橋玄応が世話人となって奉納させたものです。 鰐口は古代、中世時代の軍中楽器の一種で、鼓の音を制節するのに用いたといわれています。その後、拝殿の向拝に吊るされ、参拝者が綱打ちする用具となりました。 </p>	
<p>国登録有形文化財</p>	<p>佐藤家住宅</p>	<p>平成29年6月28日登録</p>
	<p> 佐藤家は、呉服商や醤油醸造業を営み、明治以降は町議員や郵便局長を歴任するなど地域振興に貢献しました。 佐藤家の屋敷の規模は大きく、また各建物もよく保存されていて、宮城県の近代和風建築の代表的な遺例の一つとなっています。 平成29年に、母屋をはじめ表門、蔵など合わせて10に及ぶ建造物が、国の登録有形文化財に指定されました。 </p>	
<p>町指定文化財</p>	<p>繁昌院阿弥陀如来坐像</p>	<p>昭和52年9月6日指定</p>
	<p> 平安時代末期の作（推定）、寄木造金箔塗、台座とも高さ150cm、重量は32.5kg この阿弥陀如来像は、さる雲上人の持仏堂から、故あって寄進者の所有するところとなりましたが、「国宝ともいふべきこの阿弥陀如来像を個人の所有としていますことは勿体ない」として永久安置の所を選択すること数年、信州善光寺を初め、国立博物館、あるいは浄土宗系の諸寺院から懇望される中を、御縁により昭和51年4月吉祥日、繁昌院に遷座し、盛大な入仏式が行なわれ、毎月23日を縁日として大切におまつりしています。 </p>	

町指定文化財	金ヶ瀬薬師堂板碑群	平成21年3月25日登録
	<p>薬師堂境内に板碑群が残されています。かつて洪水によって薬師堂と寺院が押し流され、薬師堂だけが再建されましたが、荒地化した敷地を整理し、散乱した古碑を境内に取り纏めて移したものであると思われ、文保2年（1318年）の板碑をはじめ12基残存しています。</p>	
町指定無形民俗文化財	小山田やすとこ	昭和52年9月6日指定
	<p>やすとこは、元禄年間の米沢城下で婚礼の際の跡見の床入りの祝宴に唄われていたもので、その後、仙台領に伝わり、小山田の地でも唄われるようになりました。戦前は緋（かすり）の振袖で踊られましたが、戦後になって現在のような田植時の早乙女姿の衣装となりました。</p> <p>太鼓と鉦（かね）、拍子木の伴奏で朗々と「やすとこ」が唄われ、これにあわせて、藤の花を垂れた花笠をかぶり、緋の稼ぎ着、広帯、たすき掛け、赤い腰巻、手甲、緑色のはばき、白足袋、赤緒の草履きの服装をして日の丸扇を二本持って踊ります。</p>	
町指定無形民俗文化財	堤神楽	昭和52年9月6日指定
	<p>出雲流岩戸神楽に属する堤神楽は、仙台とその周辺から県南の各地に分布している十二座神楽のひとつで、明治の中頃に堤地区の長山孫治氏が蔵王町向山地区の神楽をこの地に伝承し、現在に至っています。大正八年、大高山神社の付属神楽となって以来、五穀豊穰、年中除災を祈念して、夏祭（8月最終日曜日）と、秋祭（10月体育の日）に奉納されるなど、大河原町における唯一の神楽として保存、伝承の活動を続けています。</p>	

出典：「大河原町ホームページ」（平成29年 大河原町）

3. 人口

(1) 人口・世帯数

本町は年々人口が増加しており、世帯数も同様に増加していますが、世帯当たりの人員は、昭和60年で3.65人/世帯であったのに対し、平成27年では2.62人/世帯と減少しています。

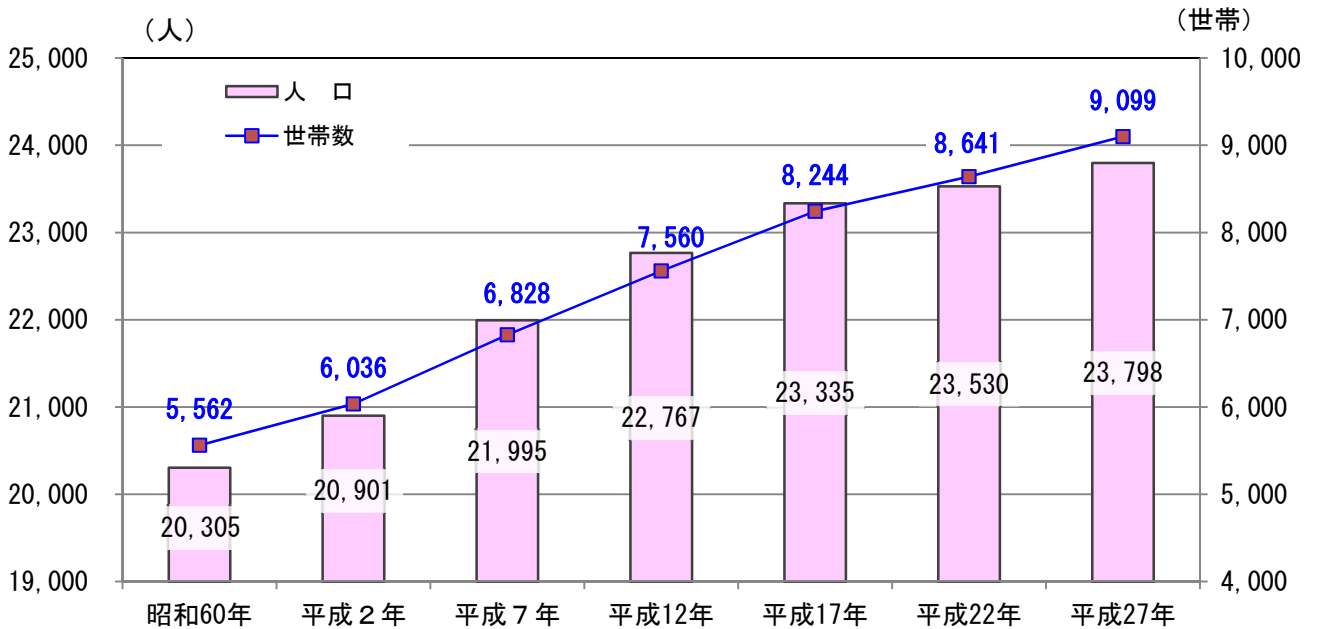
表 3-4 人口及び世帯数

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	伸び率 (%) *1
総人口(人)	20,305	20,901	21,995	22,767	23,335	23,530	23,798	17.2
世帯数(世帯)	5,562	6,036	6,828	7,560	8,244	8,641	9,099	63.6

出典：「国勢調査」(各年 総務省統計局)

*1: 伸び率の計算は以下の式より算出した。

$$\text{伸び率} = \{ (\text{平成27年} / \text{昭和60年}) - 1 \} \times 100(\%)$$



出典：「国勢調査」(各年 総務省統計局)

図 3-4 人口及び世帯数の推移

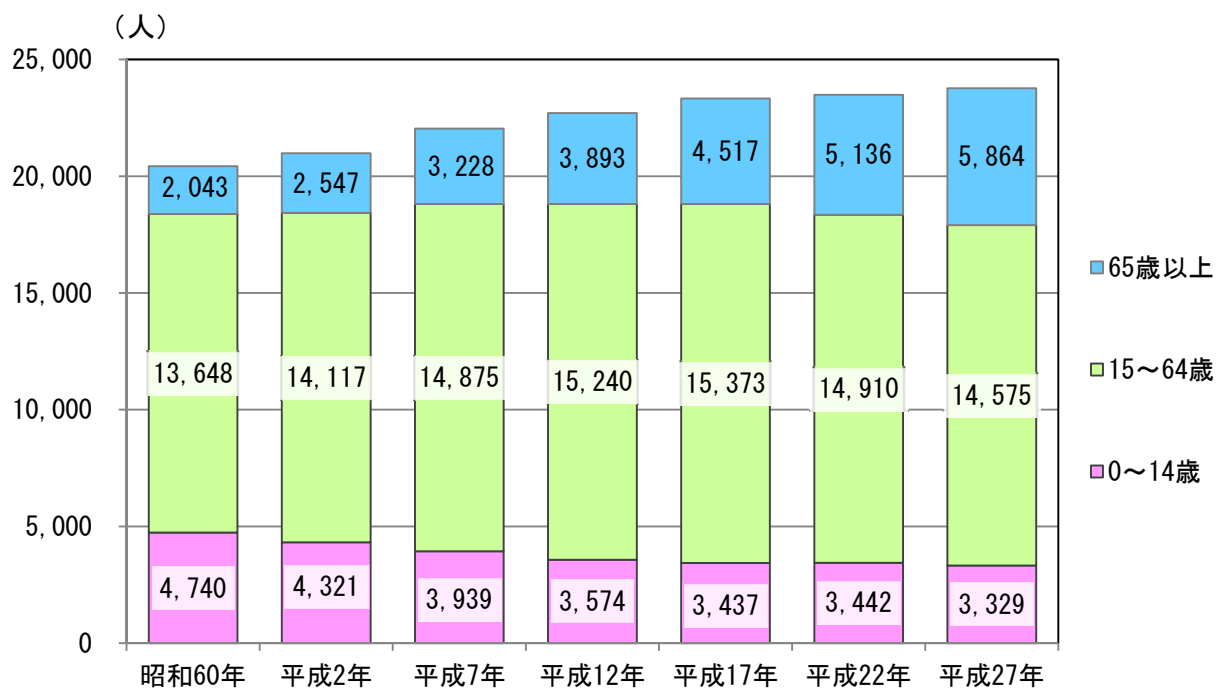
(2) 年齢別人口

本町の年齢別人口を経年的に見ると、生産年齢人口（15～64歳）に大きな変化はないものの、高齢人口（65歳以上）は昭和60年比で3倍近く増え、年少人口（0～14歳）は3割ほど減っています。

表 3-5 年齢3区分別人口

年齢区分	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
0～14歳	4,740	4,321	3,939	3,574	3,437	3,442	3,329
15～64歳	13,648	14,117	14,875	15,240	15,373	14,910	14,575
65歳以上	2,043	2,547	3,228	3,893	4,517	5,136	5,864
総数	20,431	20,985	22,042	22,707	23,327	23,488	23,768

出典：「住民基本台帳」（大河原町町民生活課）



出典：「住民基本台帳」（大河原町町民生活課）

図 3-5 年齢3区分別人口の推移

(3) 人口動態

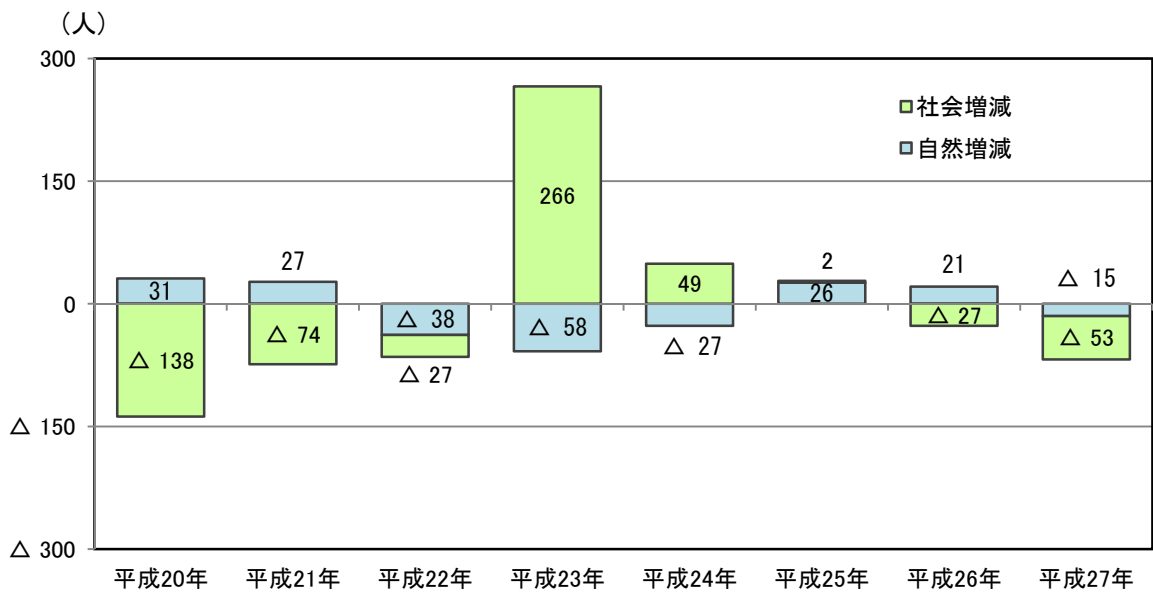
平成23年に転入人口が転出人口を上回る転入超過の社会増が266人と顕著に現れていますが、それ以降社会増は小さくなり、平成26年で社会減に転じています。

なお、平成25年～平成26年には出生数が死亡者数を上回る自然増が続きますが、平成27年には自然減に転じています。

表 3-6 人口動態

	自然動態			社 会 動 態									人口 増加数 (A+B)
	出生	死亡	増減 (A)	転 入				転 出				増減 (B)	
				総数	県内 から	県外 から	その 他	総数	県内 へ	県外 へ	その 他		
平成 20 年	217	186	31	1,062	728	304	30	1,200	831	339	30	△138	△107
平成 21 年	248	221	27	994	706	281	7	1,068	738	318	12	△74	△47
平成 22 年	180	218	△38	961	673	279	9	988	722	253	13	△27	△65
平成 23 年	183	241	△58	1,226	843	362	21	960	622	336	2	266	208
平成 24 年	210	237	△27	1,044	696	344	4	995	673	319	3	49	22
平成 25 年	225	199	26	1,119	780	336	3	1,117	755	359	3	2	28
平成 26 年	217	196	21	982	670	309	3	1,009	705	301	3	△27	△6
平成 27 年	220	235	△15	1,019	649	369	1	1,072	742	330	0	△53	△68

出典：「大河原町統計資料」（平成28年 大河原町）



出典：「住民基本台帳」（大河原町町民生活課）

図 3-6 人口動態の推移

(4) 行政区別人口

本町では43地区の行政区に分かれて地域コミュニティが形成されており、このうち比較的人口が多いのは、「上川原区」、「新田町区」、「桜町3区」、「金ヶ瀬6区」などです。

表 3-7 行政区別人口（平成27年）

行政区	世帯数	人口	行政区	世帯数	人口
小山田	91	267	住吉町	192	454
橋本	70	222	稗田	399	935
福田	53	139	原前	313	767
小島	159	393	南原前	169	430
上川原	631	1,612	上谷1	334	773
上町1	355	879	上谷2	125	293
上町2	264	653	上谷3	357	932
中町	180	435	上大谷	62	191
本町1	206	569	金ヶ瀬1	144	410
本町2	181	460	金ヶ瀬2	53	158
新田町	581	1,507	金ヶ瀬3	142	354
桜町1	299	753	金ヶ瀬4	68	204
桜町2	189	527	金ヶ瀬5	139	430
桜町3	612	1,541	金ヶ瀬6	422	1,213
尾形丁1	115	277	丑越	355	890
尾形丁2	105	271	緑団地	41	84
末広	255	606	湯尻	42	115
保料	208	512	堤1	60	224
西原	470	1,163	堤2	52	157
幸町	236	511	新開	34	103
中島	159	379	新寺	46	143
錦町	334	832			
			総数	9,302	23,768

出典：「住民基本台帳」
（平成27年1月1日現在 大河原町町民生活課）



4. 産業

(1) 就業者数

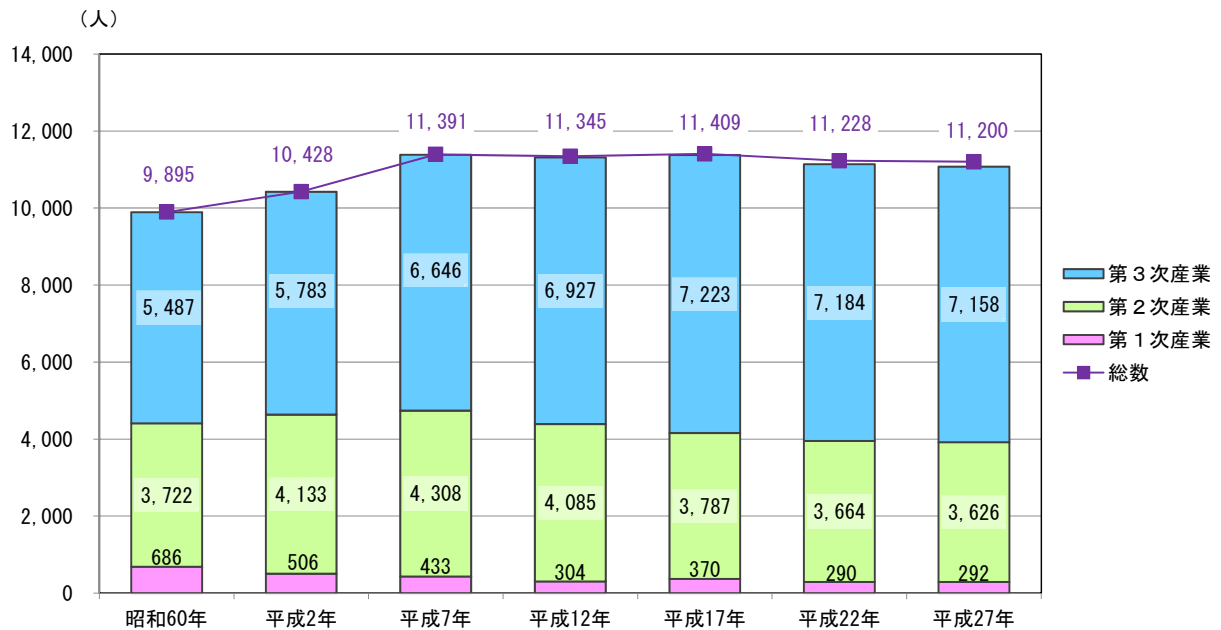
本町の就業者数は平成2年から平成7年の間に1,000人程度の増加がありましたが、その後は大きな変化はなく、平成17年以降は減少傾向にあります。平成27年では平成17年に比べ200人近い就業者が減少しています。

産業分類別就業者人口の割合でみると、第1次産業が昭和60年と比較すると平成27年は57%減っているのに対し、第3次産業は昭和60年と比較すると平成27年は30%以上増加しています。

表 3-8 産業3分類別就業者数

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
第1次産業	686	506	433	304	370	290	292
第2次産業	3,722	4,133	4,308	4,085	3,787	3,664	3,626
第3次産業	5,487	5,783	6,646	6,927	7,223	7,184	7,158
分類不能		6	4	29	29	90	124
総数	9,895	10,428	11,391	11,345	11,409	11,228	11,200

出典：「国勢調査」（各年 総務省統計局）



出典：「国勢調査」（各年 総務省統計局）

図 3-8 産業3分類別就業者数の推移

(2) 農業の動向

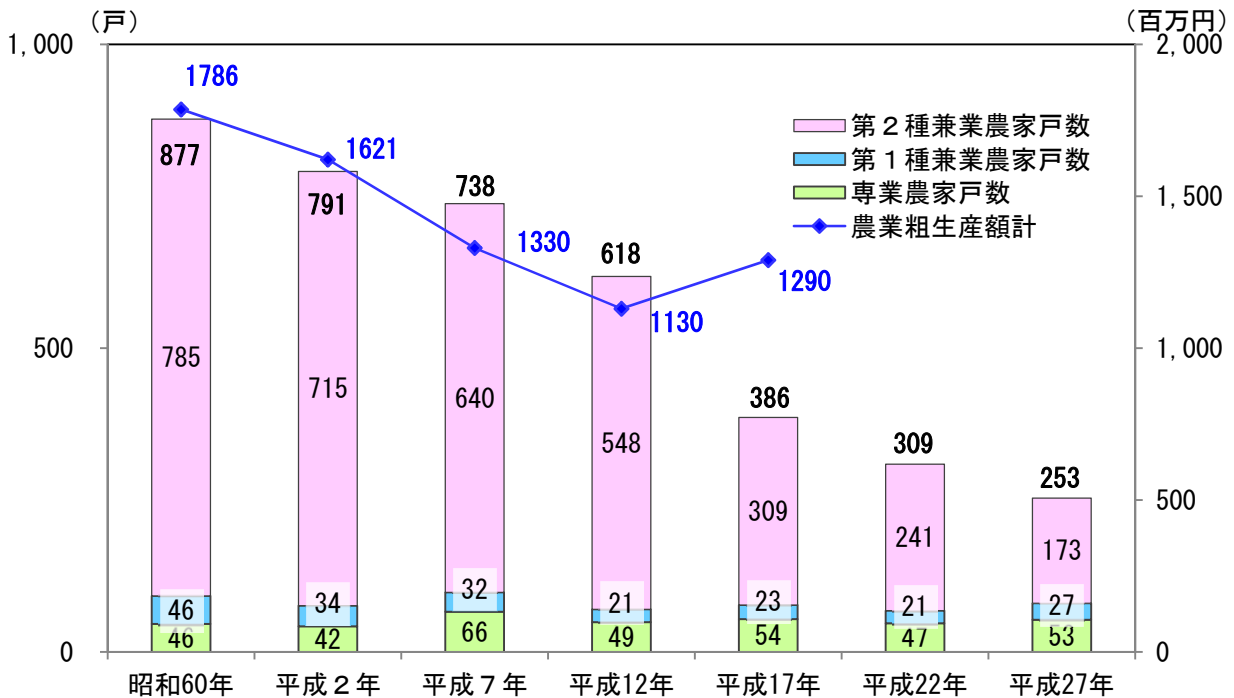
本町の総農家数は減少傾向にあり、昭和60年には877戸あった農家戸数は平成27年には253戸と3割弱にまで落ち込んでいます。減少の多くは農家戸数の大半を占めていた第2種兼業農家で、専業農家は50戸前後で推移しています。

農業粗生産額については、平成19年以降の統計がないため近年の動向は不明ですが、平成17年の農業粗生産額は昭和60年に比べ3割程度減少しています。

表 3-9 農家数及び粗生産額

	農 家 数 (戸)				農業粗生産額計 (百万円)
	専 業	第1種兼業	第2種兼業	総 数	
昭和60年	46	46	785	877	1,786
平成2年	42	34	715	791	1,621
平成7年	66	32	640	738	1,330
平成12年	49	21	548	618	1,130
平成17年	54	23	309	386	1,290
平成22年	47	21	241	309	—
平成27年	53	27	173	253	—

出典：農林水産省統計調査部 「世界農林業センサス・宮城県統計書」
 農林水産省農林経済局統計情報部 「農林業センサス・宮城県統計書」
 宮城県統計年鑑（基となる資料は、農林水産省「農(林)業センサス」）
 東北農政局大河原統計・情報センター「仙南地方の農林統計」
 ※平成19年以降、「仙南地方の農林統計」は作成されず、生産額・所得額が集計されていないため、公表できない。



出典：農林水産省統計調査部 「世界農林業センサス・宮城県統計書」
 農林水産省農林経済局統計情報部 「農林業センサス・宮城県統計書」
 宮城県統計年鑑（基となる資料は、農林水産省「農(林)業センサス」）
 東北農政局大河原統計・情報センター「仙南地方の農林統計」
 ※平成19年以降、「仙南地方の農林統計」は作成されず、生産額・所得額が集計されていないため、公表できない。

図 3-9 従業者数および年間商品販売額の推移

昭和60年には約734 haあった本町の経営耕地面積は、平成17年には519 haと7割程度にまで減少しましたが、平成22年に増加に転じています。

戸当たりの経営耕地面積が増え、特に「田」の耕作面積が平成17年から27年までに1割以上増加しています。

表 3-10 地目別経営農家数及び耕地面積

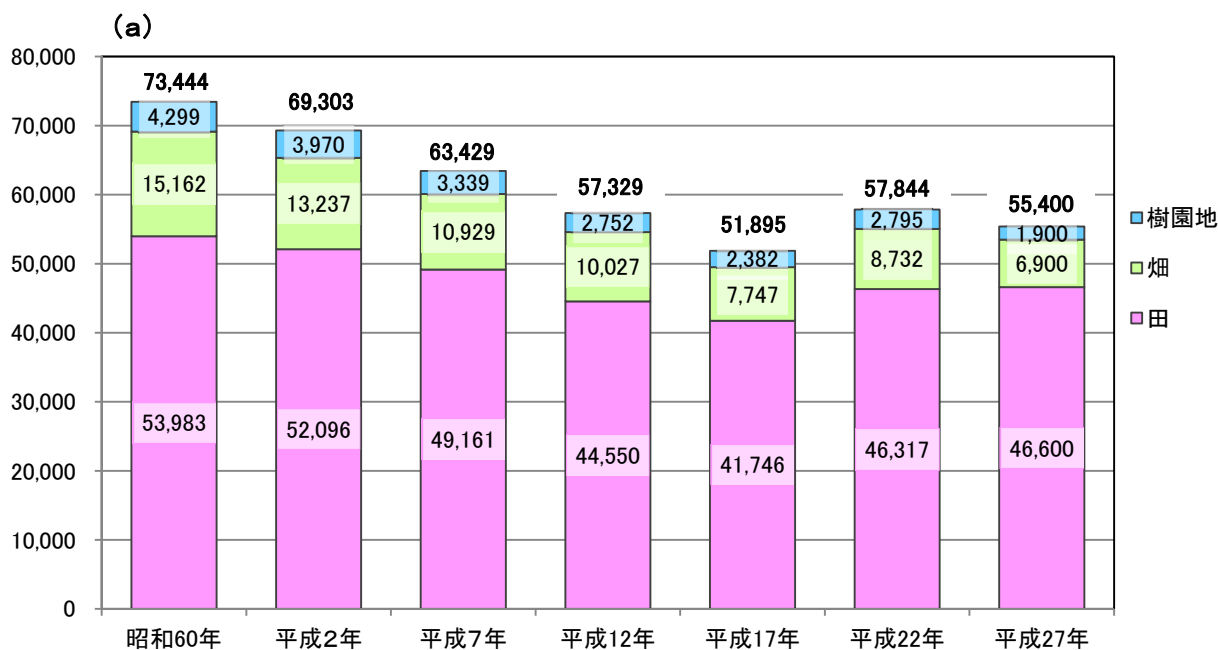
	地目別経営農家戸数(戸)			経営耕地面積(a)			
	田	畑	樹園地	田	畑	樹園地	総面積
昭和60年	848	781	170	53,983	15,162	4,299	73,444
平成2年	757	679	169	52,096	13,237	3,970	69,303
平成7年	699	659	162	49,161	10,929	3,339	63,429
平成12年	590	531	100	44,550	10,027	2,752	57,329
平成17年	378	348	75	41,746	7,747	2,382	51,895
平成22年	294	290	56	46,317	8,732	2,795	57,844
平成27年	238	220	52	46,600	6,900	1,900	55,400

出典：農林水産省統計調査部 「世界農林業センサス・宮城県統計書」

農林水産省農林経済局統計情報部 「農林業センサス・宮城県統計書」

宮城県企画部 「宮城県農業基本調査報告書」

※平成17年数値より、農林業センサスに従い農業経営体を基にした数値になっている。



出典：農林水産省統計調査部 「世界農林業センサス・宮城県統計書」

農林水産省農林経済局統計情報部 「農林業センサス・宮城県統計書」

宮城県企画部 「宮城県農業基本調査報告書」

※平成17年数値より、農林業センサスに従い農業経営体を基にした数値になっている。

図 3-10 地目別経営耕地面積の推移

(3) 工業の動向

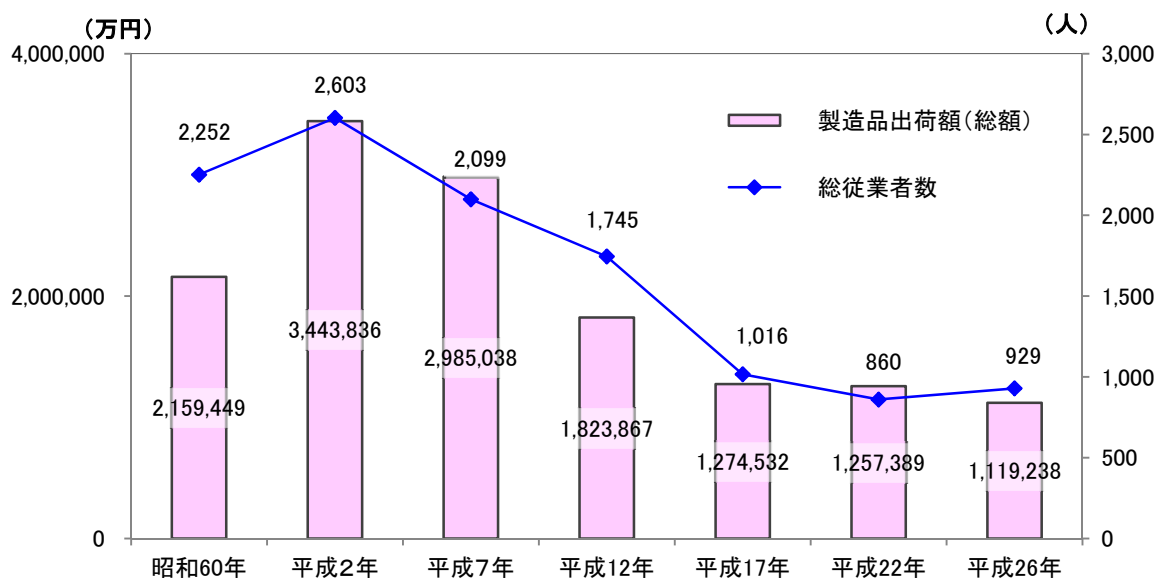
本町の工業に係る事業所数及び従業員数は平成2年の103事業所、2,603人、平均従業者数25.3人をピークに減少し、製造品出荷額についても平成2年の3,443,836万円をピークに減少しています。

平成26年時点の事業所数は31事業所、従業者数は929人、製造品出荷額は1,119,238万円です。なお、事業所あたりの平均従業者数は30.0人で若干の増加ではあるが、県の平均従業者数35.0人を下回っており、小規模事業所の構成割合が高いことが伺えます。

表 3-11 事業所数・従業者数及び製造品出荷額等

	事業所数 (事業所)	総従業者数 (人)	製造品出荷額 (総額) (万円)
昭和 60 年	107	2,252	2,159,449
平成 2 年	103	2,603	3,443,836
平成 7 年	106	2,099	2,985,038
平成 12 年	97	1,745	1,823,867
平成 17 年	37	1,016	1,274,532
平成 22 年	34	860	1,257,389
平成 26 年	31	929	1,119,238

出典：「工業統計調査結果報告書」（平成27年 宮城県企画部）



出典：「工業統計調査結果報告書」（平成27年 宮城県企画部）

図 3-11 従業者数及び製造品出荷額等の推移

(4) 商業の動向

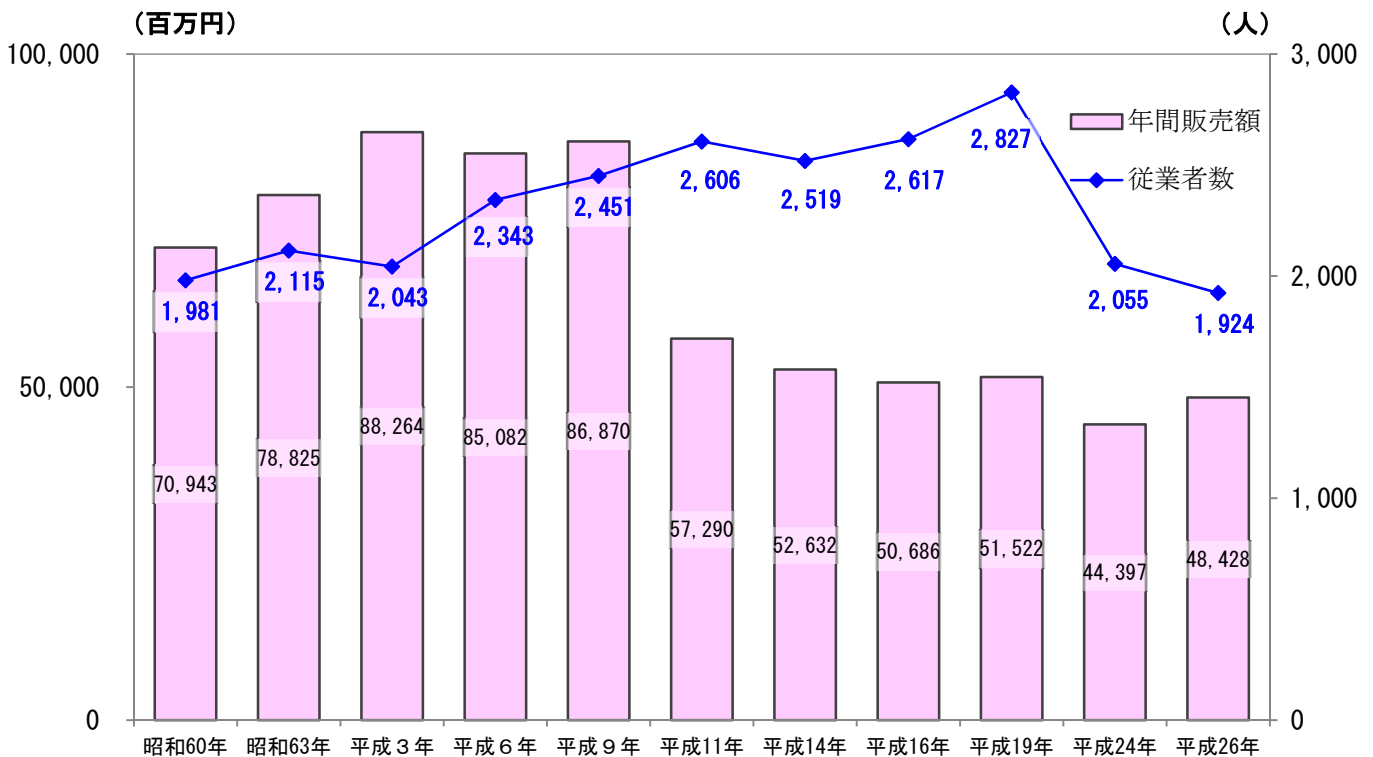
本町の商業に係る事業所数は平成16年の410店から徐々に減少傾向にあり、従業者数も平成19年の2,827人をピークに減少に転じています。年間商品販売額は、平成9年の8,686,973万円から大きく減少しています。

平成26年時点は事業所数が293店、従業者数が1,924人、事業所当り平均従業者数が6.6人、年間商品販売額が4,842,800万円となっています。また、就業者1人当たりの年間商品販売額は25.2百万円で県平均の27.5百万円よりやや低くなっています。

表 3-12 商店数・従業者数および年間商品販売額

	商店数 (店)	従業者数 (人)	年間販売額 (万円)
昭和60年	396	1,981	7,094,346
昭和63年	411	2,115	7,882,519
平成 3年	417	2,043	8,826,431
平成 6年	407	2,343	8,508,228
平成 9年	404	2,451	8,686,973
平成11年	422	2,606	5,728,990
平成14年	378	2,519	5,263,234
平成16年	410	2,617	5,068,606
平成19年	393	2,827	5,152,184
平成24年	281	2,055	4,439,700
平成26年	293	1,924	4,842,800

出典：「宮城県の商業（商業統計調査結果報告書）」（平成27年 宮城県企画部）



出典：「宮城県の商業（商業統計調査結果報告書）」（平成27年 宮城県企画部）

図 3-12 従業者数および年間商品販売額の推移

5. 土地利用

(1) 土地利用状況

本町の土地利用状況は、平成27年1月時点で山林が30.0%（750ha）と最も多く、次いで田が18.2%（470ha）、畑が11.8%（295ha）となっており、原野等を含める自然的土地利用が本町全域の6割を占めています。なお、宅地は445haで17.8%、雑種地は82haで3.2%を占めています。

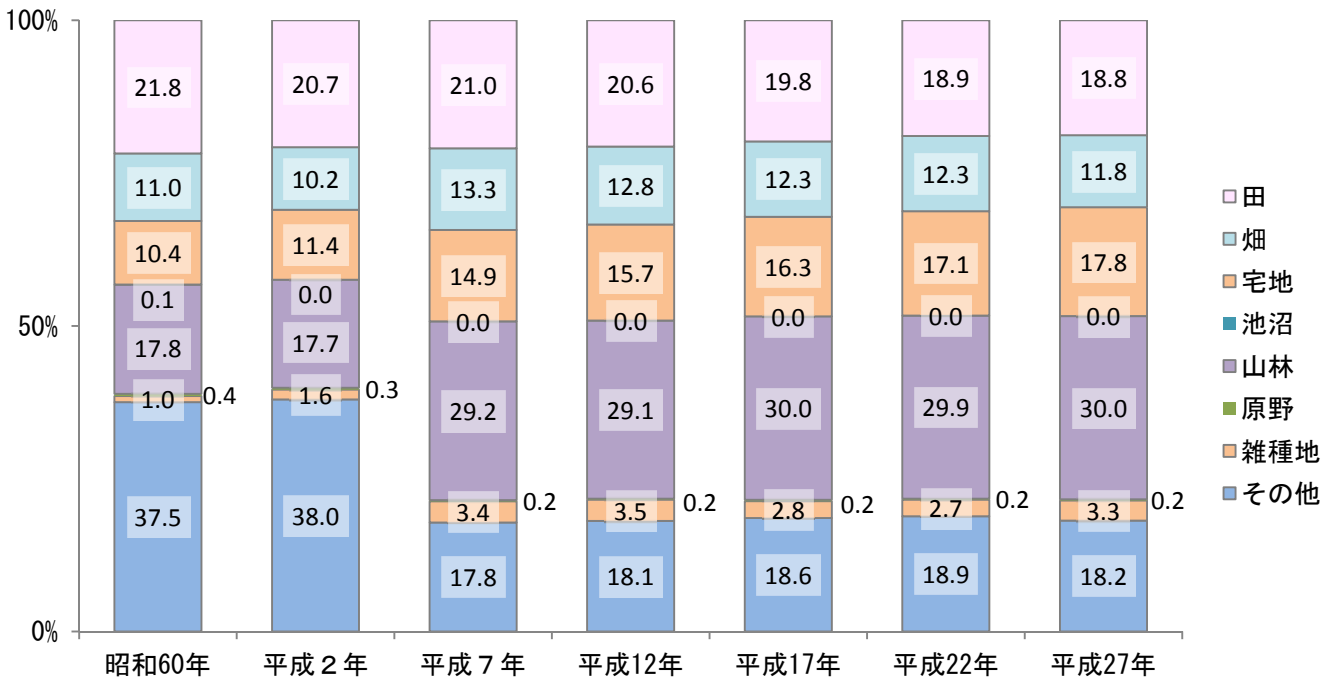
土地利用の推移をみると、30年前（昭和60年）と比較して田が0.3%減（70ha）、畑が0.8%増（21ha）、原野が0.2%減（0.5ha）、宅地が7.4%増（187ha）増加して、緩やかに市街化が進んでいることが伺えます。

表 3-13 土地利用構成

(単位：㎡)

	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地	その他	総面積
昭和60年	5,397,963	2,737,851	2,572,996	18,725	4,416,391	88,858	249,136	9,298,080	24,780,000
平成2年	5,193,520	2,563,563	2,863,841	4,037	4,425,328	78,239	395,967	9,505,505	25,030,000
平成7年	5,244,775	3,340,643	3,739,757	5,280	7,317,558	53,926	862,322	4,465,739	25,030,000
平成12年	5,162,189	3,193,847	3,928,230	5,281	7,281,389	51,130	865,483	4,522,451	25,010,000
平成17年	4,958,082	3,079,897	4,073,199	5,955	7,505,394	53,083	692,372	4,642,018	25,010,000
平成22年	4,729,767	3,079,905	4,270,596	5,954	7,489,037	46,611	672,218	4,715,912	25,010,000
平成27年	4,697,357	2,945,543	4,447,902	5,376	7,491,221	46,371	819,398	4,536,832	24,990,000

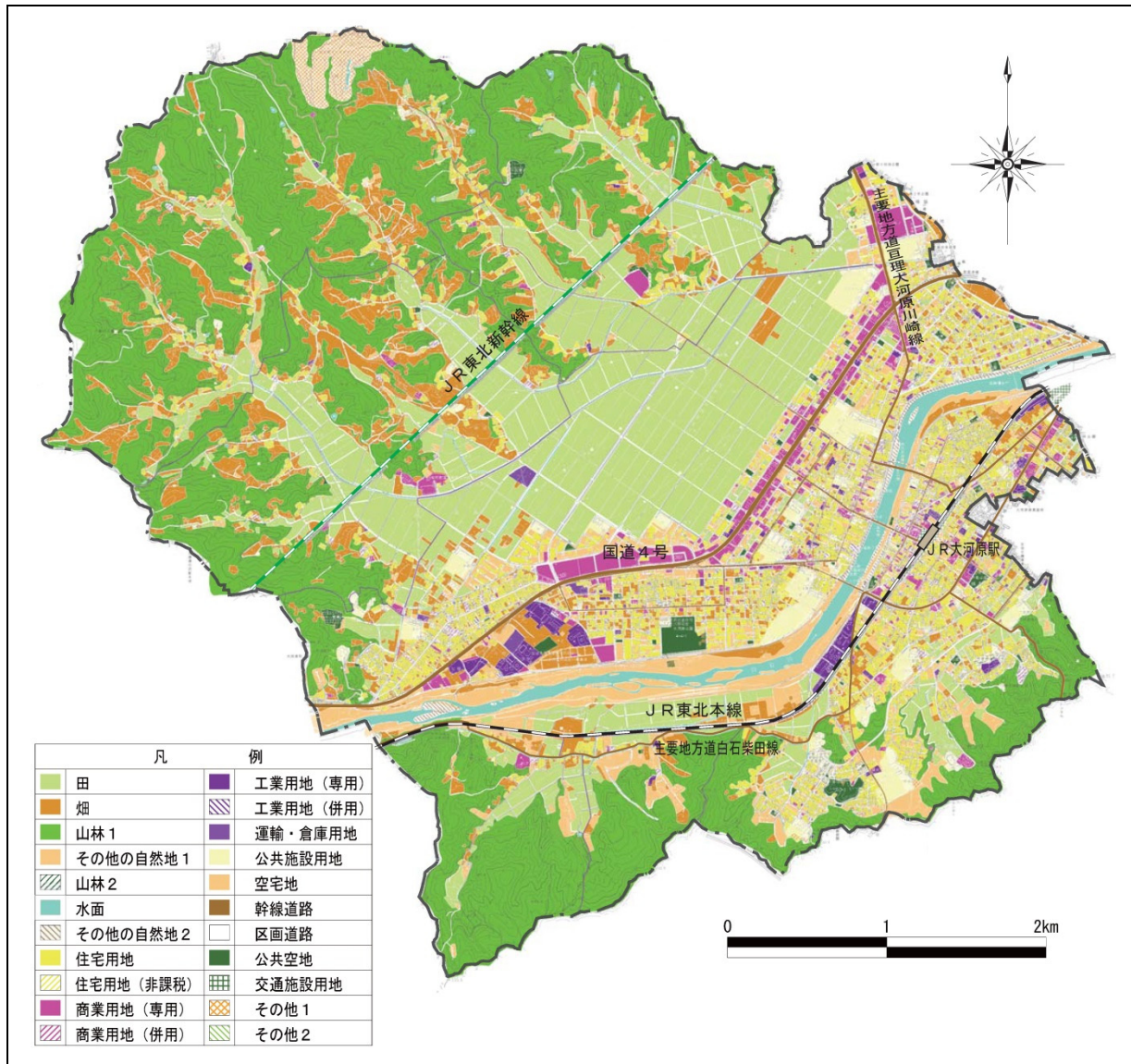
出典：「固定資産概要調書」（平成27年 大河原町税務課）



出典：「固定資産概要調書」（平成27年 大河原町税務課）

図 3-13 土地利用構成の推移

本町は、白石川沿いを中心に市街地が形成されていますが、その中に畑や空宅地が混在する土地利用となっています。国道4号沿道では、商業用地（専用）が集積し、その西側ではまとまった水田が形成されています。また、国道4号南西側に位置する金ヶ瀬川根地区では、工業用地（専用）と畑や空宅地が混在した土地利用となっています。北側および南側の町境付近は、山林を中心とした土地利用となっています。



出典：「平成22年度 県南部地区都市計画基礎調査」（平成23年 宮城県）

図 3-14 土地利用現況図

(2) 開発動向

本町では大河原町開発指導要綱に基づき、開発区域が1,000 m²以上の開発事業に対して事前協議を求めています。また、3,000 m²を超える開発行為に対しても県への申請前に町との事前協議を求めています。平成19年度からの大河原町開発指導要綱に基づく事前協議は、45件となっています。近年では、金ヶ瀬字川根における工場、工業用地の造成・建設や駐車場敷地造成のための開発行為が多く見られます。

表 3-14 開発事業

年度	受付年月日	開発目的	開発区域	開発面積(m ²)	地目	
					現況	台帳
19	H19. 8. 28	共同住宅の建築	字小島 18-2 の一部	2,968.72	宅地	宅地
19	H19. 10. 22	共同住宅 2 棟建築	大谷字稗田前 59-1 外	1,824.46	-	田
19	H19. 10. 31	住宅敷地の造成	金ヶ瀬字川根 22-17	1,543.35	畑	畑
19	H19. 12. 17	賃貸戸建住宅の建築	大谷字見城前 1-1 外	2,997.88	-	宅地等
19	H19. 12. 17	資材置場増設	新寺字東入山 2-1 外	2,990.45	山林等	山林等
19	H20. 1. 11	ライスセンター新築	金ヶ瀬字関の走 60	9,659.15	雑種地	雑種地
19	H20. 3. 13	資材置場造成	大谷字下欠 1-1 外	6,011.00	-	山林等
20	H20. 5. 16	住宅建築用資材の集積場	金ヶ瀬字青木 65-2	1,549.99	雑種地	宅地等
20	H20. 7. 15	工場用地の確保	金ヶ瀬字中川原 72-1 外	1,754.24	畑	畑
20	H20. 10. 3	賃貸住宅 7 棟建築	字南平 7-15 外	1,426.86	雑種地	宅地等
20	H20. 10. 2	建売住宅建築	字町 189-2 の一部	1,000.94	-	宅地
21	H21. 7. 22	事務所兼倉庫建築	字小島 17-2	1,571.17	宅地	宅地
21	H21. 9. 30	宅地造成	大谷字稗田前 26-1	2,237.00	雑種地	雑種地
21	H21. 11. 27	居宅・作業場・倉庫建築	新寺字洞秀山 13-1 外	1,064.00	畑	畑
21	H21. 12. 9	店舗建設	字新南 62-7 外	1,843.18	宅地	宅地
22	H22. 6. 8	駐車場整備等	大谷字戸ノ内前 31-11	1,333.00	畑	畑
22	H22. 7. 22	戸建住宅の造成	大谷字戸ノ内前 41-23 外	1,097.34	宅地	宅地
22	H23. 1. 17	宅地建売分譲	字錦町 7-4 外	2,599.64	宅地	宅地
23	H23. 10. 18	宅地造成	字中島町 1-18 外	1,202.43	畑	畑
23	H23. 11. 25	車庫建築	大谷字下欠 1-1 外	1,578.83	雑種地	畑等
24	H24. 6. 25	宅地分譲	字新南 49-3 外	2,386.17	宅地等	宅地等
24	H24. 7. 23	宅地分譲	字高砂町 18-3 外	1,802.55	畑	畑等
24	H24. 10. 17	宅地建売分譲	字新南 70-2	1,405.00	田	田
24	H24. 11. 12	工場敷地拡幅	大谷字保料前 3 外	5,387.45	畑等	畑他
24	H24. 12. 10	工場新築及び駐車場	大谷字西原前 92-1 外	1,650.00	雑種地	畑
24	H25. 1. 29	共同住宅の建築	大谷字稗田前 41-2 外	1,324.00	田	-
24	H25. 2. 7	事務所増築工事	大谷字上谷前 220-1 外	2,377.47	宅地	山林
25	H25. 6. 28	建売住宅分譲	金ヶ瀬字居掛 44-1 外	1,133.00	畑	畑等
25	H25. 8. 14	賃貸・共同住宅用地築造	大谷字西原前 180 外	2,360.73	畑等	宅地等
25	H25. 11. 1	賃貸住宅用地築造	字中川原 8-5	1,687.39	宅地	宅地
25	H25. 11. 11	宅地分譲	字広瀬町 1-2 外	1,442.09	田	田
25	H26. 3. 3	宅地分譲	字住吉町 10-3	1,530.04	田	田
26	H26. 5. 1	建売分譲	金ヶ瀬字新居掛 103-1 外	1,796.00	田	畑
26	H26. 6. 24	店舗建築	字南原町 1-1 外	3,130.59	雑種地	雑種地
26	H26. 6. 25	宅地分譲	大谷字原前 1	1,681.76	宅地	宅地
26	H26. 7. 16	自社用資材置場建築	大谷字後田 47-6	2,932.64	雑種地	山林
26	H26. 10. 1	増築	金ヶ瀬字新開 126-9	2,100.47	宅地等	宅地等
26	H27. 1. 28	宅地分譲	大谷字町向 250-1 外	2,053.75	宅地	宅地
27	H27. 4. 8	駐車場敷地造成	金ヶ瀬字川根 106-13 外	4,799.29	-	宅地等
27	H27. 12. 8	宅地分譲	大谷字見城前 168-2 外	1,297.96	原野	雑種地等
27	H28. 3. 18	工場建設に伴う造成	金ヶ瀬字川根 105-5 外	11,610.77	宅地	宅地・雑種地
28	H28. 10. 11	農業作業場建築	金ヶ瀬字新杓子木 46	1,662.00	畑	畑
28	H28. 10. 19	川根工業用地の造成	金ヶ瀬字川根 106-9 外	31,461.26	畑	畑
28	H28. 10. 28	長屋住宅建築工事に伴う宅地造成	字山崎町 15-1 外	1,654.17	田	田
28	H29. 2. 9	店舗開設の為	金ヶ瀬字中川原 94-1 外	2,495.10	畑・宅地	畑・宅地

出典：「大河原町開発指導要綱による事前申請協議一覧表」（平成29年 大河原町）

(3) 新築動向

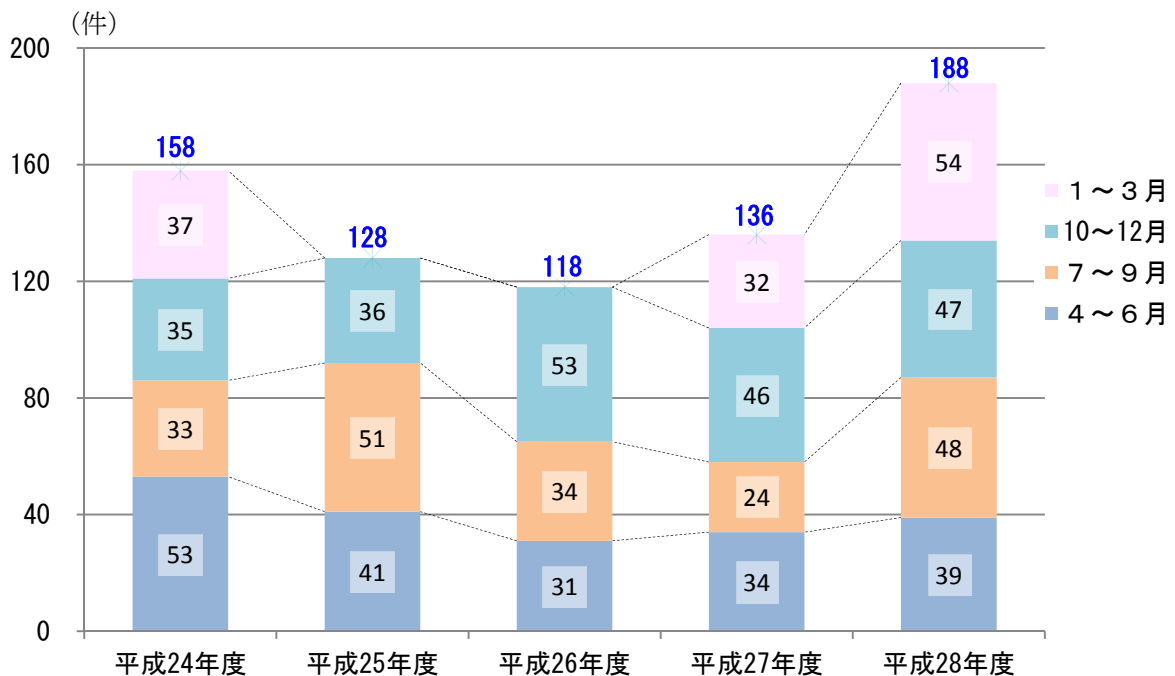
人口が増加している本町では、毎年100件を超える新築の届出数があります。住宅ローン減税が当初平成25年度までだったことや平成26年4月からの消費税増税に伴い、平成25～26年度は届出件数がやや減少したもののすぐに回復し、平成28年度は過去5年間で最も多い188件に達しました。

表 3-15 新築届出数

(単位：人)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
4 月	12	11	3	5	13
5 月	20	12	10	12	20
6 月	21	18	18	17	6
7 月	9	15	12	7	27
8 月	10	24	7	9	8
9 月	14	12	15	8	13
10 月	14	21	31	10	25
11 月	8	15	7	13	10
12 月	13	0	15	23	12
1 月	13	0	0	10	15
2 月	13	0	0	13	18
3 月	11	0	0	9	21
合 計	158	128	118	136	188

出典：「建築確認申請状況調査（件数）」（平成24～28年度 大河原町）



出典：「建築確認申請状況調査（件数）」（平成24～28年度 大河原町）

図 3-15 新築届出数の推移

(4) 人口集中地区 (DID地区)

人口集中地区人口及び面積を表3-16 (昭和35年から平成27年) に、区域の変遷を図3-16 (昭和60年から平成27年) にて整理しました。

人口集中地区の面積は昭和40年以降、拡大の一途をたどっていますが、人口密度は昭和40年をピークに減少を続け、平成12年に増加に転じた以降はほぼ横ばいの状態が続いています。

表 3-16 人口集中地区人口及び面積

(単位：人・km²・%)

(各年10月1日)

	人 口	増 加 数	増 加 率	面 積	人口密度 (1 km ² 当たり)
昭和 35 年	7,708	—	—	1.3	5,929.2
昭和 40 年	7,554	△ 154	△ 2.0	1.2	6,295.0
昭和 45 年	8,198	644	8.5	1.5	5,465.3
昭和 50 年	7,990	△ 208	△ 2.5	1.6	4,993.8
昭和 55 年	8,519	529	6.6	2.0	4,259.5
昭和 60 年	9,935	1,416	16.6	2.5	3,974.0
平成 2 年	13,424	3,489	35.1	3.4	3,948.2
平成 7 年	13,704	280	2.1	3.5	3,904.3
平成 12 年	15,025	1,321	9.6	3.6	4,139.1
平成 17 年	14,993	△32	△0.2	3.7	4,107.7
平成 22 年	15,405	412	2.7	3.7	4,119.0
平成 27 年	16,263	858	5.6	3.9	4,148.7

出典：「国勢調査報告書 (人口集中地区の人口)」(平成28年 総務省統計局)

※：人口集中地区とは、都市公園・工業用地・水面等を除いて計算した人口密度の高い調査区 (1 km²当たり 4,000人以上) が互いに隣接し、その人口が5,000人以上を有する地域をいう。

〈昭和60年～平成7年〉

昭和60年から平成7年にかけて土地区画整理事業等における住宅地の開発が進み、南側の上谷地区と区画整理事業における山崎地区、北側における西桜地区、東青川地区等での人口集中地区が拡大しています。

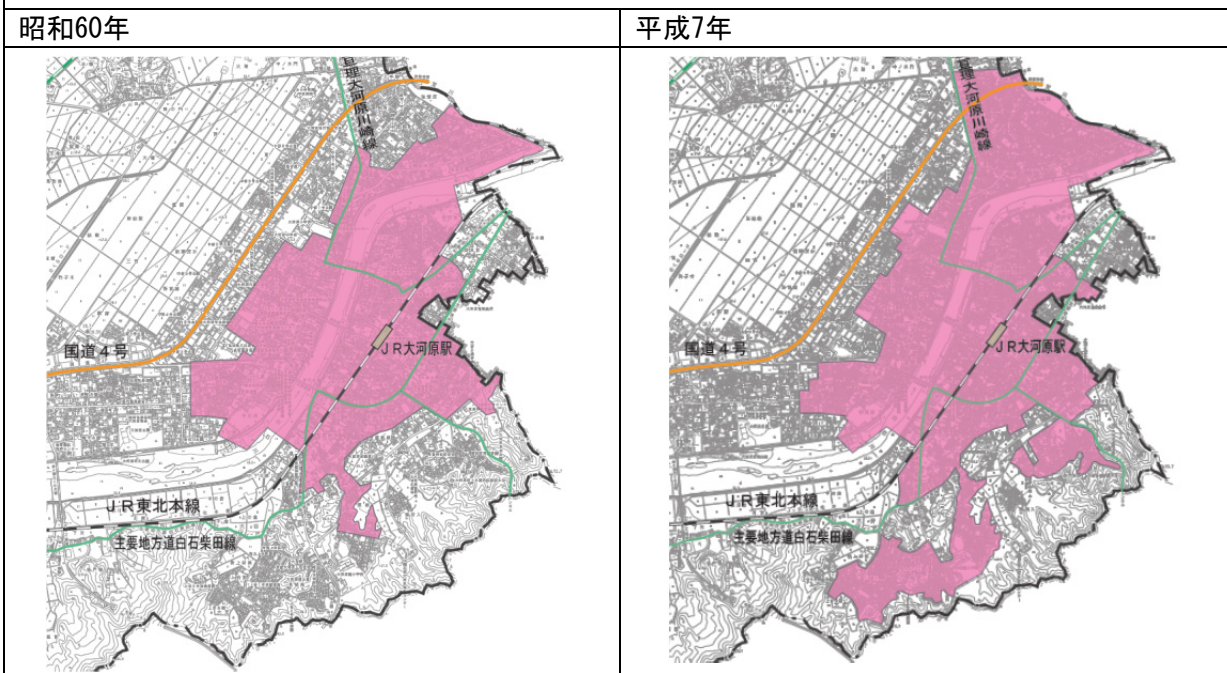


図 3-16(1) 人口集中地区の変遷

〈平成7年～平成17年〉

平成7年から平成17年では、区画整理事業区域である中部第2地区及び東金ヶ瀬地区において人口集中地区の拡大が見られます。

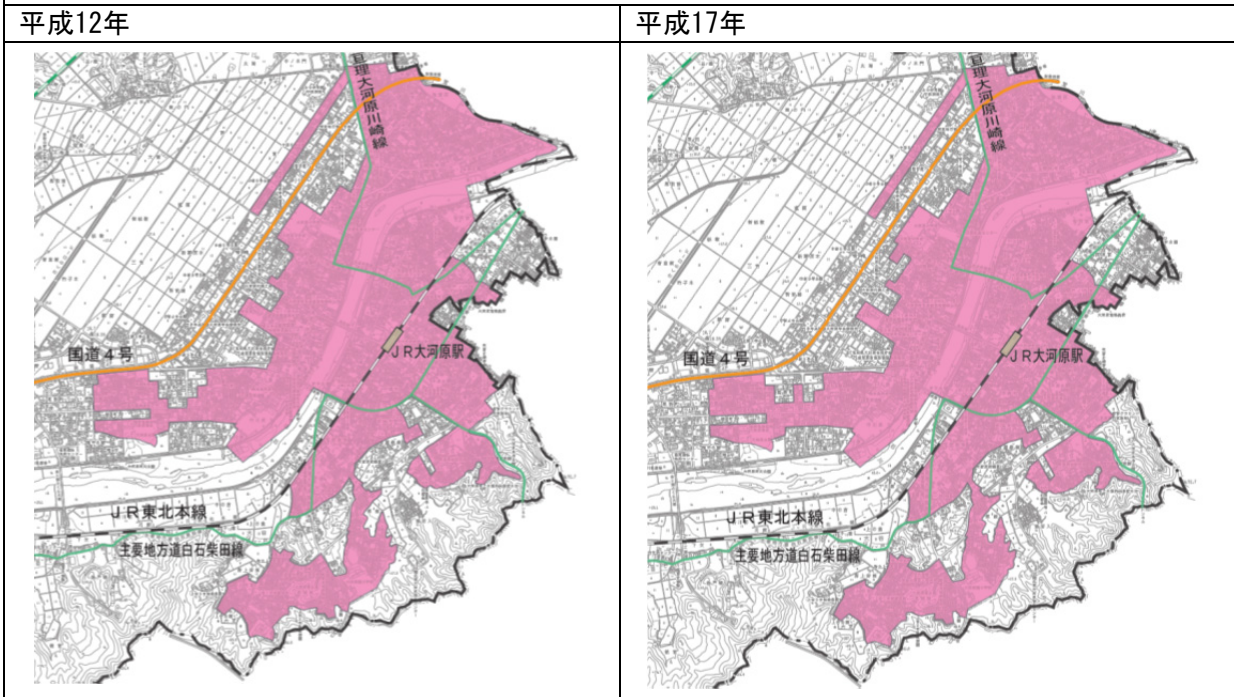


図 3-16(2) 人口集中地区の変遷

〈平成22年～平成27年〉

平成22年では中部第二地区および東部地区で、平成27年では新東部地区、西原地区、南原地区で人口集中地区が拡大していますが、平成22年では末広地区周辺において減少しています。

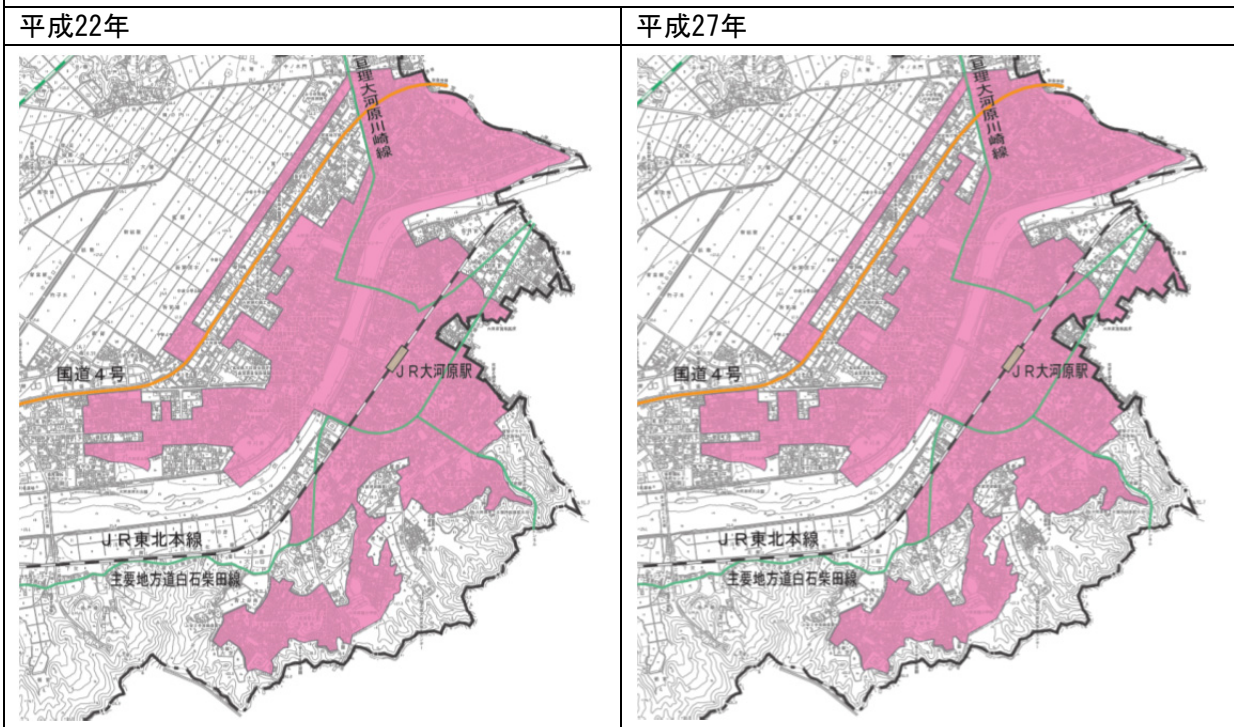


図 3-16(3) 人口集中地区の変遷

(5) 市街地開発事業の動向

1) 土地区画整理事業

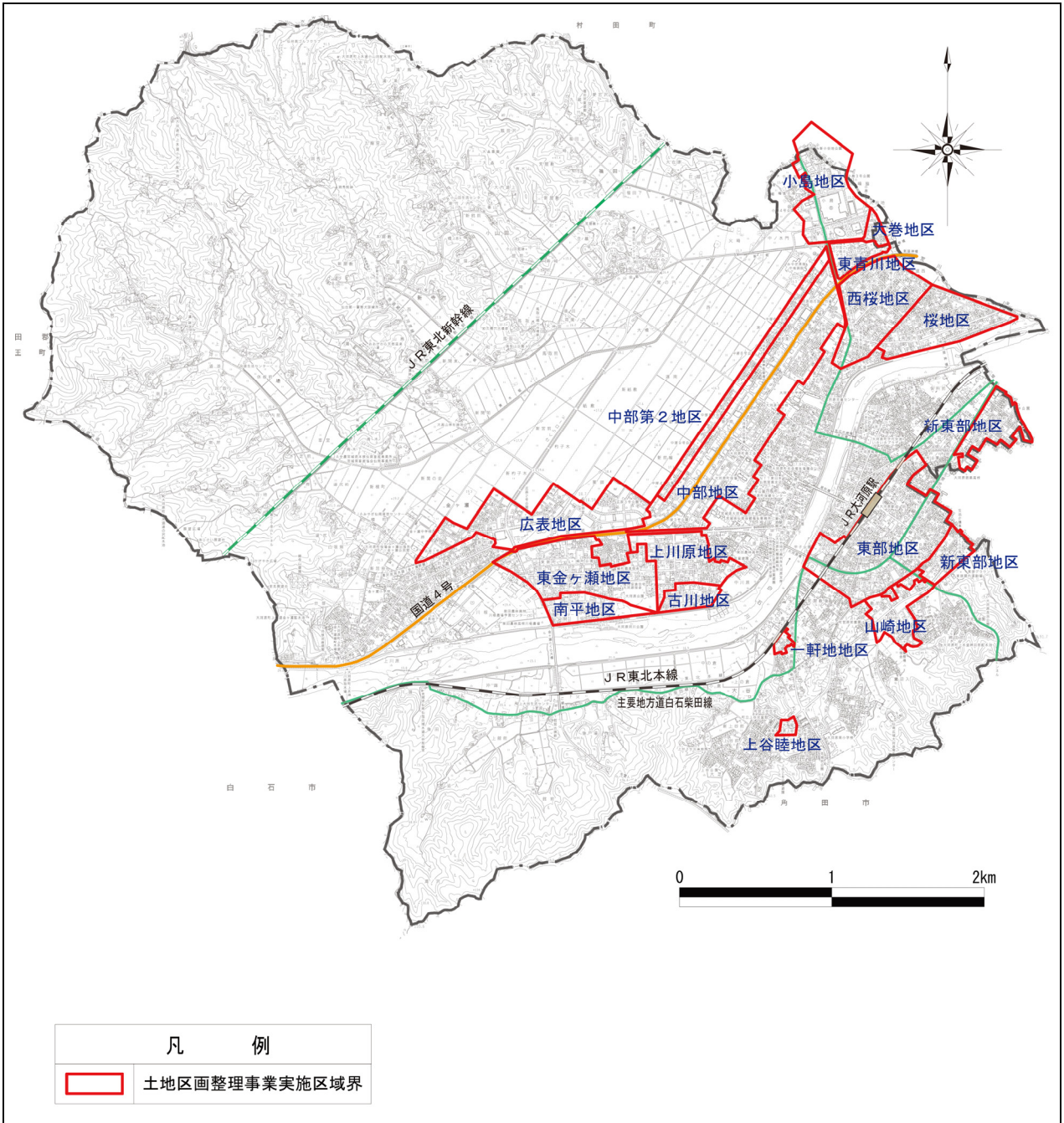
本町における区画整理事業は、組合等施行と公共団体等を合わせ施工済17地区となり、用途地域（649.9 ha）の半分以上にあたる333.9 haが土地区画整理事業により整備されています。

しかし、桜町、上川原、丑越、金ヶ瀬等の土地区画整理事業実施区域内の中には事業完了後も宅地としての利用が進まず、一部は未利用地として畑が点在しています。

表 3-17 土地区画整理事業一覧

地区名	事業主体	面積(ha)	施行期間
東部	大河原町	43.23	昭和32年度～38年度
桜	大河原町桜土地区画整理組合	21.16	昭和40年度～44年度
上川原	大河原町上川原土地区画整理組合	21.75	昭和43年度～48年度
東金ヶ瀬	大河原町東金ヶ瀬土地区画整理組合	26.24	昭和45年度～50年度
新東部	大河原町新東部土地区画整理組合	17.21	昭和46年度～52年度
西桜	大河原町西桜土地区画整理組合	23.95	昭和49年度～53年度
上谷睦	大河原町上谷睦土地区画整理組合	1.42	昭和51年度～54年度
東青川	大河原町東青川土地区画整理組合	5.46	昭和53年度～55年度
一軒地	大河原町一軒地土地区画整理組合	1.48	昭和53年度～55年度
中部	大河原町中部土地区画整理組合	71.24	昭和56年度～61年度
山崎	大河原町山崎土地区画整理組合	10.45	昭和57年度～61年度
大巻	大河原町大巻土地区画整理組合	2.13	昭和59年度～62年度
南平	大河原町南平土地区画整理組合	9.49	昭和63年度～平成6年度
古川	大河原町古川土地区画整理組合	7.90	平成元年度～6年度
小島	大河原町小島土地区画整理組合	23.70	平成元年度～8年度
中部第二	大河原町中部第二土地区画整理組合	11.89	平成2年度～6年度
広表	大河原町広表土地区画整理組合	35.17	平成10年度～26年度
事業総面積		333.87	

出典：「平成24年大河原町土地区画整理事業誌」（平成24年 大河原町）



出典：「平成24年大河原町土地区画整理事業誌」（平成24年 大河原町）

図 3-17 土地区画整理事業区域位置図

2) 市街地再開発事業

大河原駅前の利便性を高め高度利用を図ることを目的に、平成7年より市街地再開発事業が施行され、平成12年には駅前再開発ビル「オーガ」が誕生しました。

表 3-18 市街地再開発事業一覧

都市計画区域名	名称	施行主体	施行区域面積 (ha)	建築敷地面積 (ha)	建蔽率	容積率の制限	主要用途	最終変更年月日
仙南広域	大河原駅前地区	組合	0.7	0.5	9/10	30/10	店舗、公益施設、駐車場	平成25年3月29日

出典：「平成27年都市計画現況調査」（平成27年 国土交通省）

(6) 空き家動向

本町に空き家は240棟あり、世帯数に空き家を加えた9,542に対する割合は0.025となっています。行政区別では、中島区と保料区が13棟と最多であり、世帯数+空き家数に対する割合はそれぞれ0.076、0.059と高くなっています。湯尻区、金ヶ瀬2区、4区は世帯数に対する割合はそれぞれ0.192、0.086、0.093と高くなるなど、西側で空き家が多くなっています。

表 3-19 空き家状況

行政区	空家数	世帯数	世帯数+ 空家数	空家数÷世帯数	行政区	空家数	世帯数	世帯数+ 空家数	空家数÷世帯数
小山田	5	91	96	0.052	住吉町	1	192	193	0.005
橋本	2	70	72	0.028	稗田	11	399	410	0.027
福田	2	53	55	0.036	原前	10	313	323	0.031
小島	3	159	162	0.019	南原前	6	169	175	0.034
上川原	7	631	638	0.011	上谷1	5	334	339	0.015
上町1	6	355	361	0.017	上谷2	0	125	125	0.000
上町2	4	264	268	0.015	上谷3	1	357	358	0.003
中町	9	180	189	0.048	上大谷	3	62	65	0.046
本町1	3	206	209	0.014	金ヶ瀬1	10	144	154	0.065
本町2	7	181	188	0.037	金ヶ瀬2	5	53	58	0.086
新田町	7	581	588	0.012	金ヶ瀬3	11	142	153	0.072
桜町1	7	299	306	0.023	金ヶ瀬4	7	68	75	0.093
桜町2	6	189	195	0.031	金ヶ瀬5	3	139	142	0.021
桜町3	2	612	614	0.003	金ヶ瀬6	7	422	429	0.016
尾形丁1	6	115	121	0.050	丑越	9	355	364	0.025
尾形丁2	0	105	105	0.000	緑団地	0	41	41	0.000
末広	5	255	260	0.019	湯尻	10	42	52	0.192
保料	13	208	221	0.059	堤1	3	60	63	0.048
西原	12	470	482	0.025	堤2	3	52	55	0.055
幸町	9	236	245	0.037	新開	0	34	34	0.000
中島	13	159	172	0.076	新寺	1	46	47	0.021
錦町	6	334	340	0.018	-	-	-	-	-
					総数	240	9302	9542	0.025

出典：「大河原町都市計画基礎調査 報告書」（平成28年 大河原町）

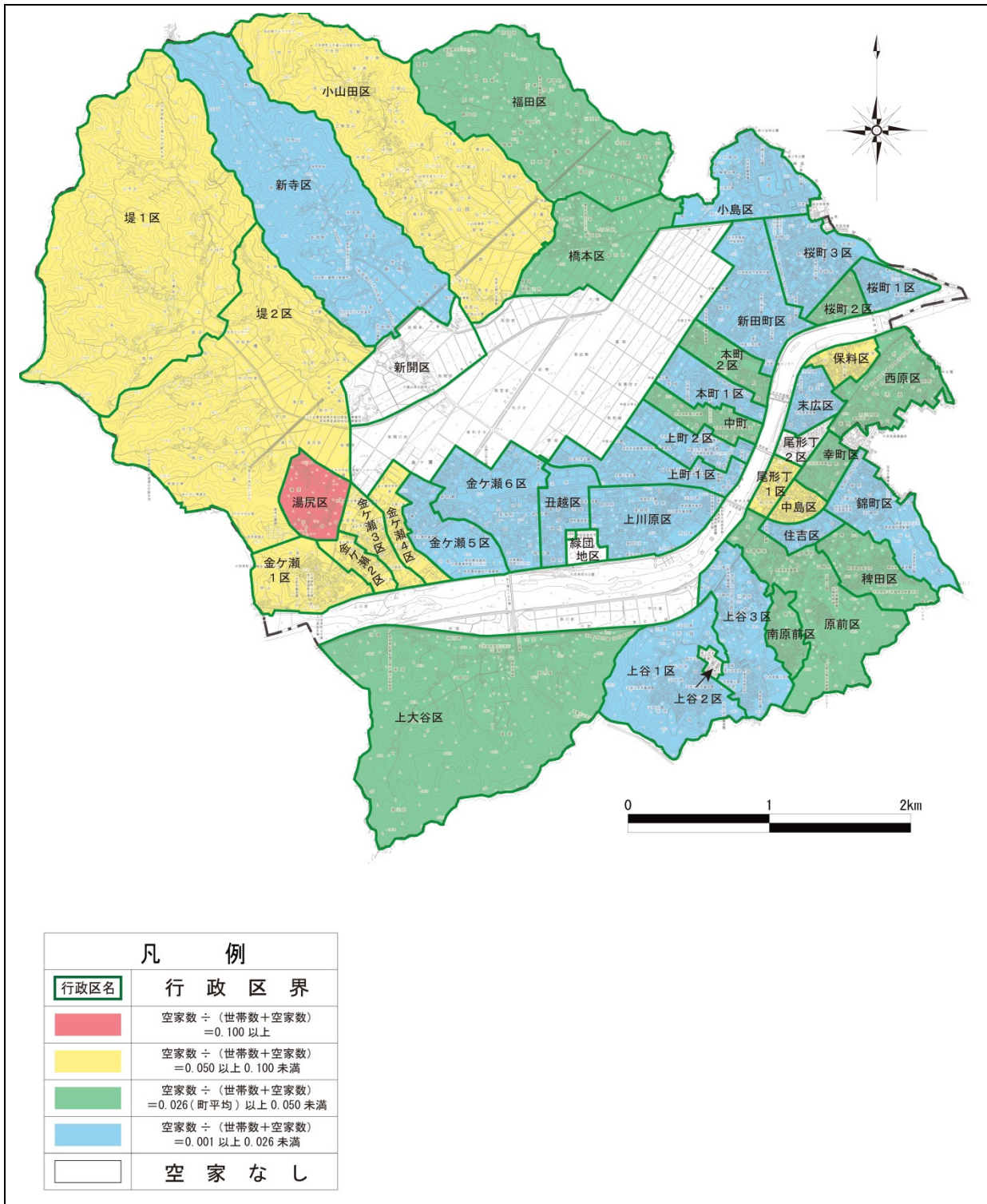


図 3-18 行政区別 世帯数+空き家数に対する空き家の割合

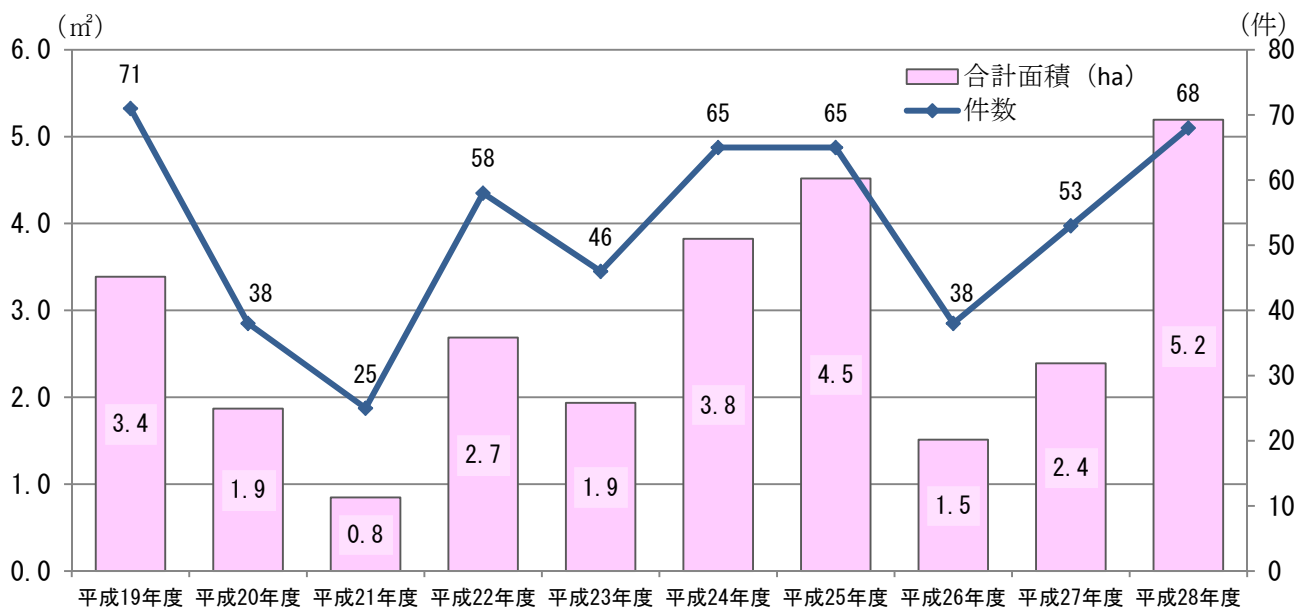
(7) 農地転用の状況

農地法に基づく町内での農地転用件数は、年度によってばらつきはあるものの、平成19年度から平成28年度の10年間では平均で1年あたり52.7件が許可され、面積にして約2.8haの農地が住宅等に転用されています。平成28年には68件、5.2haの農地転用が行われており、近年では最も多くなっています。

表 3-20 農地転用の状況

年度	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	計
件数	71	38	25	58	46	65	65	38	53	68	527
合計面積 (ha)	3.4	1.9	0.8	2.7	1.9	3.8	4.5	1.5	2.4	5.2	28.2

資料:大河原町農業委員会調べ



資料:大河原町農業委員会調べ

図3-19 農地転用の推移



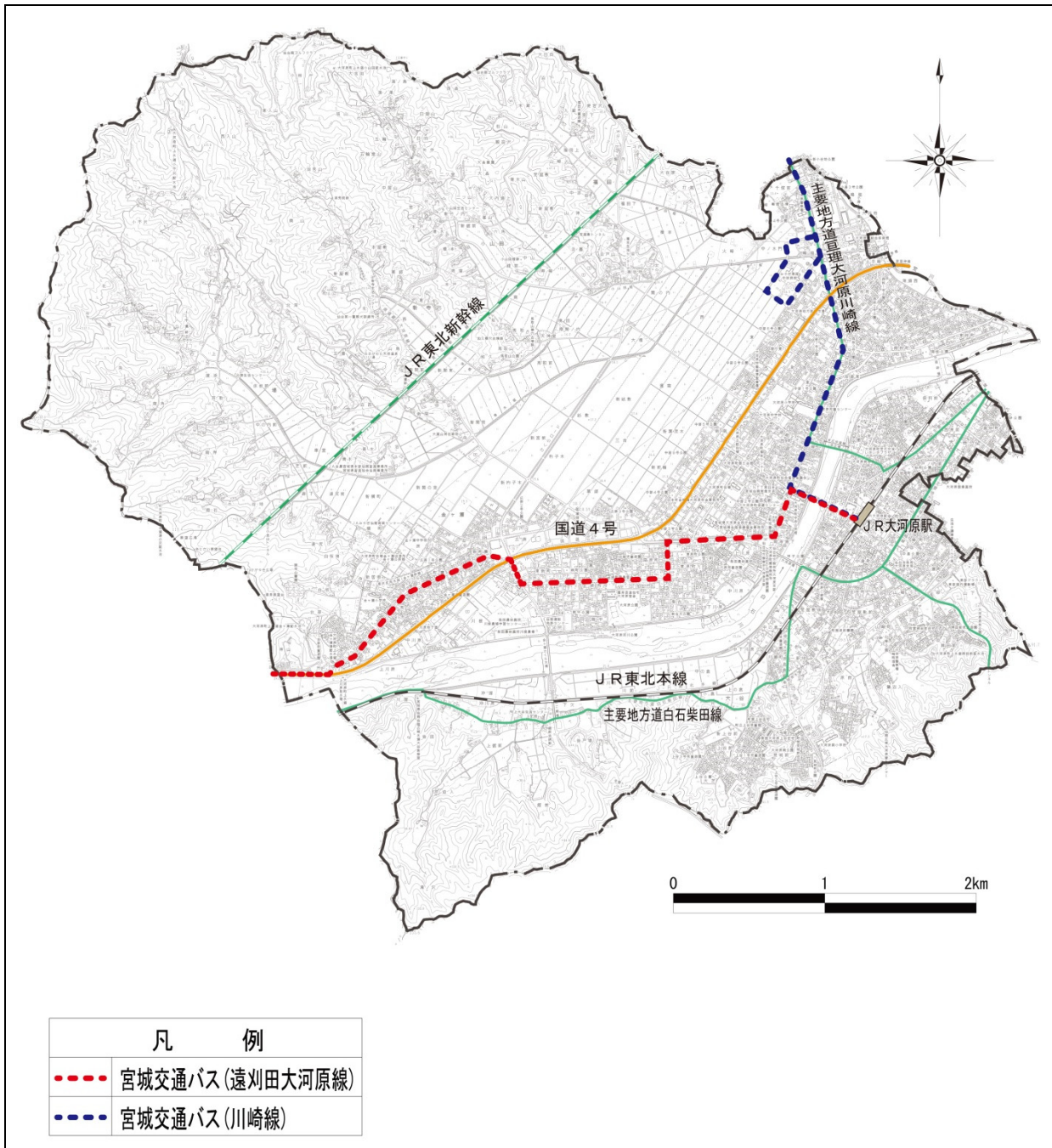
水田（川西・金ヶ瀬地区）



水田（川東地区）

6. 公共交通

町の北西をJR東北新幹線が、町の南側、白石川の右岸をJR東北本線が東西に走り、町の東側の市街地には大河原駅があります。バス路線は大河原駅を起点に、川崎町へと向かう「川崎線」、蔵王町へと向かう「大河原遠刈田線」の2本が運行されています。



出典：「宮城交通ホームページ」（平成29年 宮城交通株式会社）

図 3-20 交通網図

(1) 鉄道

本町を横断する白石川に沿ってJR東北本線が整備され、大河原駅は市街地の中心に位置しています。本町では仙台市内への通勤・通学その他、4月頃に開催される全国的にも有名な桜まつり等により、住民及び観光客に鉄道が利用されています。平成29年2月現在、1日に上り40本、下り43本、計83本が運行されています。

本町における近年の鉄道利用状況は大きな増減はなく、横ばいでの推移となっています。

表 3-21 鉄道利用者数の推移（1日平均）

(単位：人)

年度	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
利用者数	3,435	3,356	3,218	3,208	3,319	3,394	3,288

出典：「営業成績原簿」（平成27年 JR大河原駅）

(2) バス

バスは、株式会社ミヤコーバスにより2路線運行されていますが、その運行範囲は金ヶ瀬地区～川西地区に留まり、川東地区、南側及び北西側の集落では運行されていません。利用者数も年々減少傾向にあり、生活バス路線の効率・効果的な運航が課題となっています。

表 3-22 路線バスの運行数

路線名	上り/下り	平日	土・日・祝日
川崎線	上り（川崎→大河原駅前）	11本	5本
	下り（大河原駅前→川崎）	12本	5本
大河原遠刈田線	上り（アクティブリゾート宮城蔵王→大河原駅前）	4本	3本
	下り（大河原駅前→アクティブリゾート宮城蔵王）	4本	3本

出典：「大河原町ホームページ」（平成29年 大河原町）

(3) デマンド型乗合タクシー

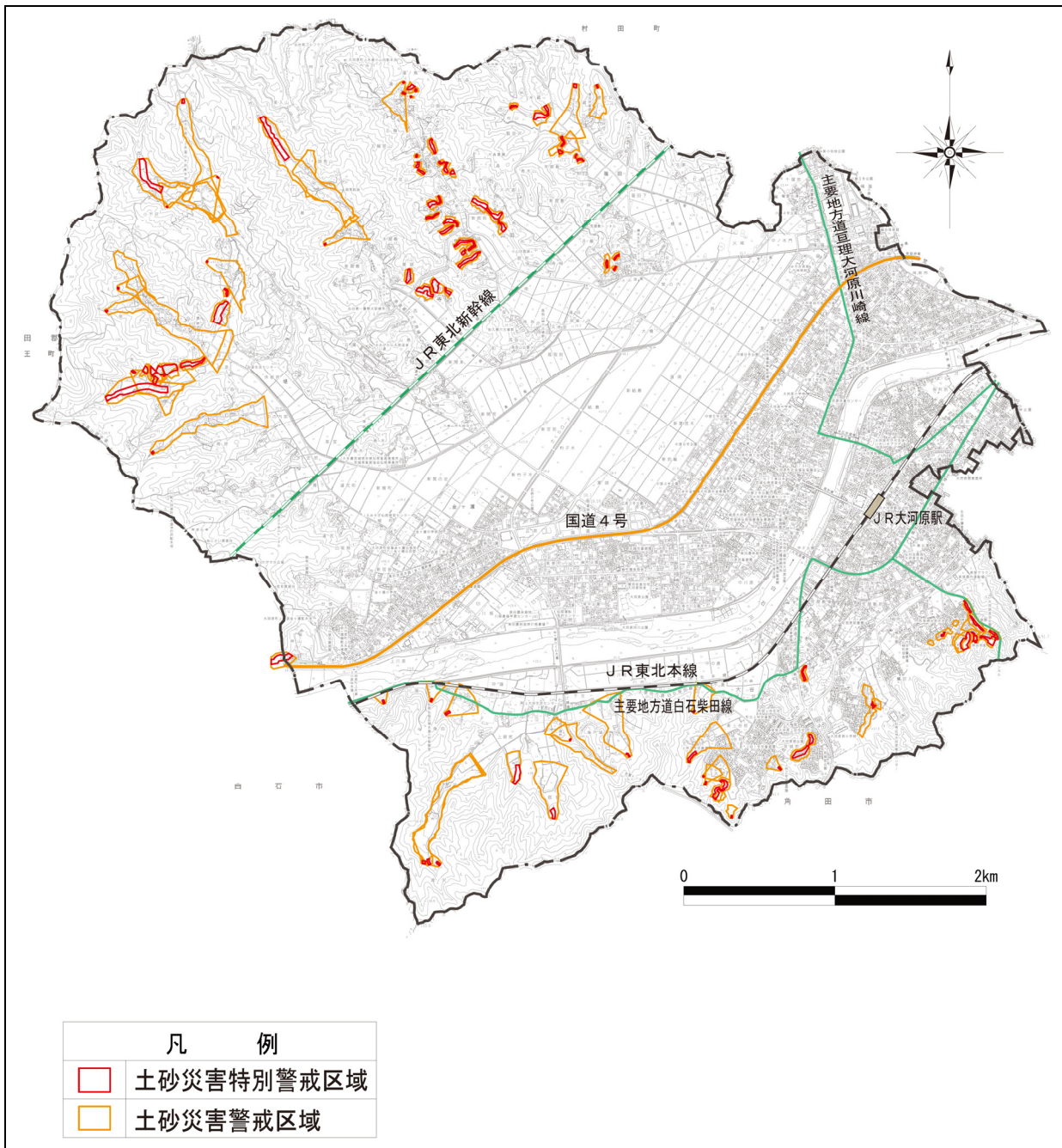
本町内全域において、平成24年7月からデマンド型乗合タクシーが導入され、バス交通などを補完する移動手段として運用されています。

7. 防災

(1) 土砂災害

本町では、土砂災害危険箇所として「土砂災害特別警戒区域」、「土砂災害警戒区域」が指定されています。

市街地の大部分は土砂災害警戒区域から離れていますが、南側住宅地の一部や西側山間部の集落、主要地方道白石柴田線及びJ R 東北本線の一部区間において指定されています。



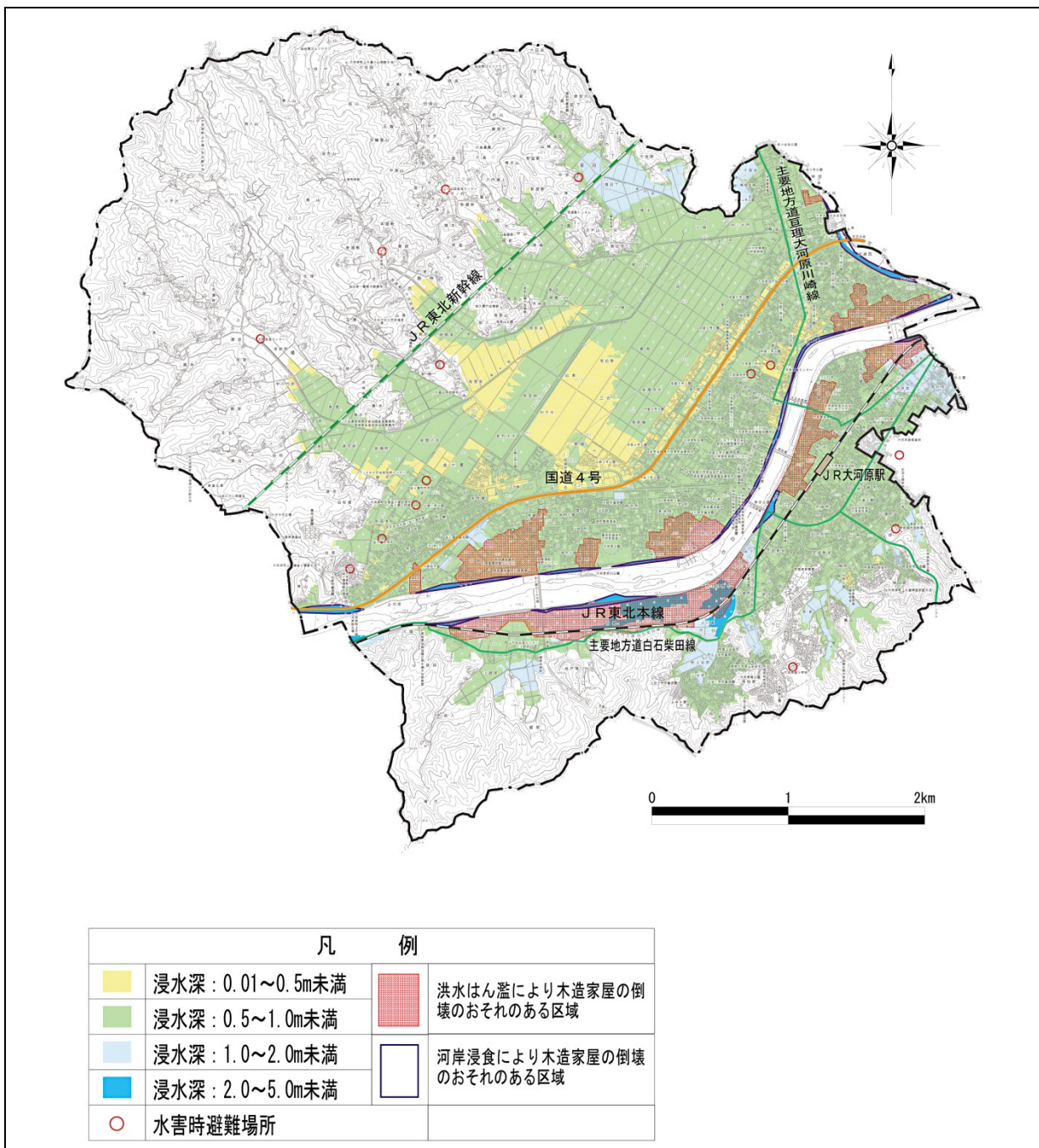
出典：「大河原町防災マップ」（平成31年 大河原町）

図 3-21 土砂災害警戒区域図

(2) 洪水災害

本町では、記録的な大雨が降った場合の白石川（雨量273mm/48時間…100年に1回程度の大雨）と荒川（205mm/24時間…20年に1回程度の大雨）の氾濫を想定し、その浸水エリアと浸水深が洪水ハザードマップにより示されています。浸水エリアは次図のとおりです。

洪水ハザードマップによると、平野部の大部分を覆っています。水害に対する指定の避難所・避難場所は川東地区に集中しており、川西地区からの避難、特に役場周辺やその北側の市街地からの避難を難しくしています。

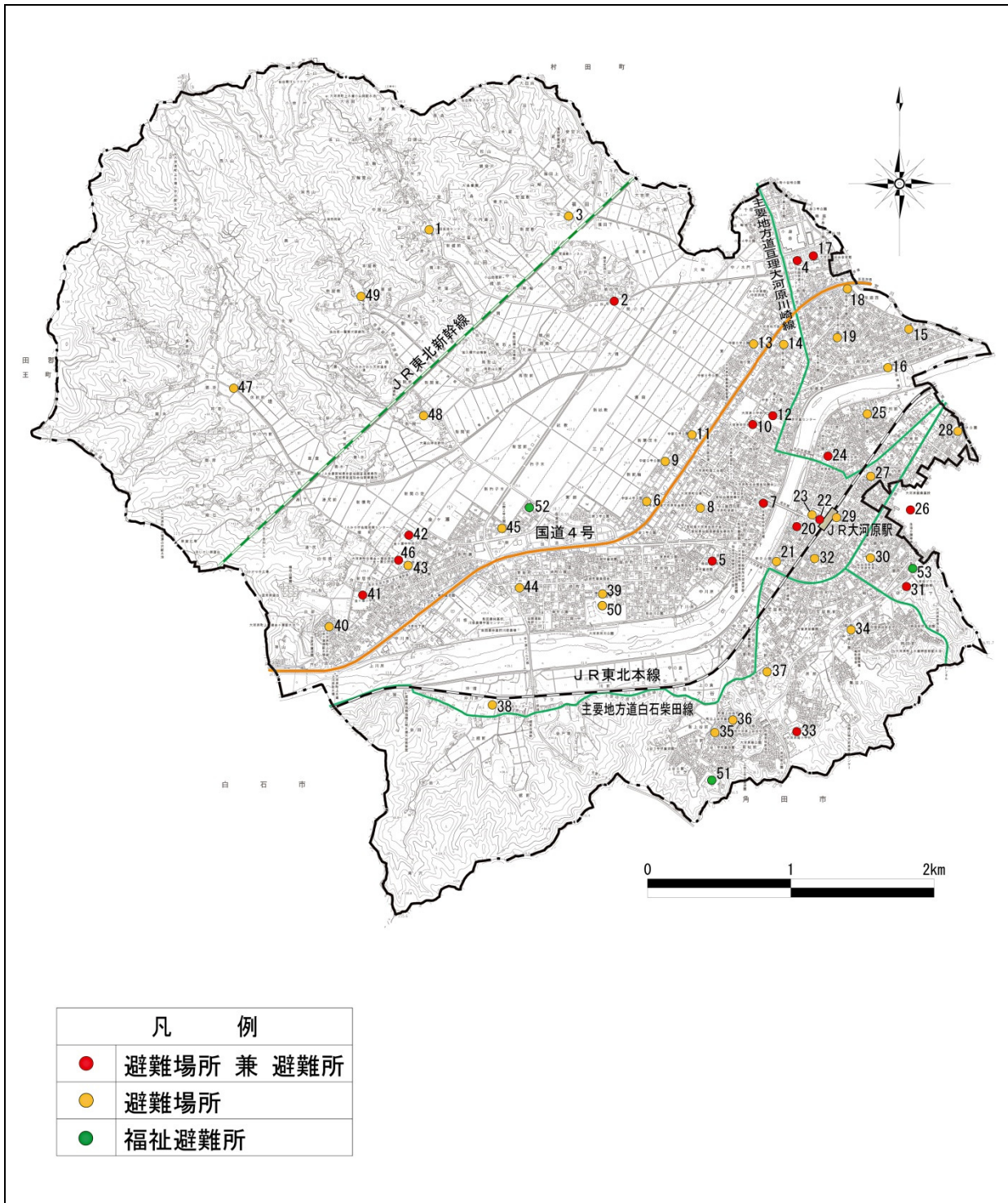


出典：「大河原町防災マップ-災害に強いまちづくり-」（大河原町）

図 3-22 洪水ハザードマップ

(3) 避難場所・避難所

本町では、災害時の避難場所及び避難所を下表のとおり指定しています。



出典：「大河原町防災マップ-災害に強いまちづくり」（平成27年 大河原町）

図 3-23 避難場所・避難所位置図

表 3-23 指定避難場所及び避難所

No.	名称	種類	No.	名称	種類
1	小山田生活センター	避難場所	28	高砂公園	避難場所
2	橋本交流センター	避難場所兼避難所	29	駅東駐車場	避難場所
3	福田集会所	避難場所	30	中島公園	避難場所
4	えずこホール	避難場所兼避難所	31	東部グラウンド・屋内運動場	避難場所兼避難所
5	柴田農林高等学校	避難場所兼避難所	32	ララ・さくら	避難場所
6	中部 4 号公園	避難場所	33	大河原南小学校	避難場所兼避難所
7	大河原町中央公民館	避難場所兼避難所	34	山崎公園	避難場所
8	中部 2 号公園	避難場所	35	上谷集会所	避難場所
9	中部 9 号公園	避難場所	36	上谷児童館	避難場所
10	大河原中学校	避難場所兼避難所	37	安浄寺	避難場所
11	中部 5 号公園	避難場所	38	上大谷生活センター	避難場所
12	大河原小学校	避難場所兼避難所	39	大河原公園駐車場	避難場所
13	中部 6 号公園	避難場所	40	台部集会所	避難場所
14	中部 7 号公園	避難場所	41	金ヶ瀬小学校	避難場所兼避難所
15	東桜公園	避難場所	42	金ヶ瀬中学校	避難場所兼避難所
16	南桜公園	避難場所	43	広表 1 号公園	避難場所
17	大河原町総合体育館	避難場所兼避難所	44	金ヶ瀬東集会所	避難場所
18	西桜 1 号公園	避難場所	45	広表 2 号公園	避難場所
19	西桜 2 号公園	避難場所	46	金ヶ瀬公民館	避難場所兼避難所
20	日本基督教団大河原教会	避難場所兼避難所	47	堤生活センター	避難場所
21	甲子公園	避難場所	48	新開集会所	避難場所
22	オーガ	避難場所兼避難所	49	新寺生活センター	避難場所
23	駅前広場	避難場所	50	大河原公園 ※広域避難場所	避難場所
24	世代交流いきいきプラザ	避難場所兼避難所	51	特別養護老人ホーム「桜寿苑」	福祉避難所
25	保料公園	避難場所	52	介護老人保健施設 「さくらの杜」	福祉避難所
26	大河原商業高等学校	避難場所兼避難所	53	生活介護「さくらの風」	福祉避難所
27	旭町公園	避難場所	-	-	-

出典：「大河原町防災マップ-災害に強いまちづくり-」（平成27年 大河原町）

(4) 木造家屋数

本町では、14,000件以上の家屋のうち80%以上が木造であり、特に土地区画整理事業が実施されていない白石川左岸の「町」地区などの古い住宅地などでは、木造家屋が密集しています。

表 3-24 家屋状況

字	木造		その他		総計	字	木造		その他		総計
	家屋数 (棟)	割合 (%)	家屋数 (棟)	割合 (%)			家屋数 (棟)	割合 (%)	家屋数 (棟)	割合 (%)	
小山田	242	82.6	51	17.4	293	南原町	174	84.5	32	15.5	206
福田	475	85	84	15	559	緑町	245	81.7	55	18.3	300
千塚前	50	89.3	6	10.7	56	東新町	132	71.7	52	28.3	184
嶋脇	1	25	3	75	4	新青川	104	83.2	21	16.8	125
北嶋脇	0	0	1	100	1	新南	420	68.3	195	31.7	615
中ノ水門	3	100	0	0	3	新東	324	68.8	147	31.2	471
南	127	81.9	28	18.1	155	大巻	21	87.5	3	12.5	24
西	2	50	2	50	4	新古川	109	78.4	30	21.6	139
東	32	69.6	14	30.4	46	南平	81	79.4	21	20.6	102
町	599	79.2	157	20.8	756	小島	61	58.1	44	41.9	105
西浦	101	86.3	16	13.7	117	広表	189	50	189	50	378
南海道下	13	68.4	6	31.6	19	大谷	2,871	82.9	592	17.1	3,463
中川原	47	82.5	10	17.5	57	金ヶ瀬	1,390	83.1	282	16.9	1,672
上川原	108	95.6	5	4.4	113	堤	353	84.2	66	15.8	419
荒町	35	92.1	3	7.9	38	新寺	143	85.6	24	14.4	167
西町	148	85.5	25	14.5	173	高砂町	190	72.8	71	27.2	261
町西	1	100	0	0	1	旭町	78	90.7	8	9.3	86
海道東	16	59.3	11	40.7	27	幸町	241	79.8	61	20.2	302
土手崎	1	100	0	0	1	錦町	258	87.2	38	12.8	296
八乙女	24	85.7	4	14.3	28	広瀬町	143	85.6	24	14.4	167
沼	29	100	0	0	29	住吉町	226	82.2	49	17.8	275
袖谷地	65	85.5	11	14.5	76	中島町	232	86.6	36	13.4	268
橋本	10	71.4	4	28.6	14	甲子町	52	81.3	12	18.8	64
南桜町	242	86.4	38	13.6	280	中の倉	7	24.1	22	75.9	29
東桜町	343	83.7	67	16.3	410	大竜	31	77.5	9	22.5	40
西桜町	306	75	102	25	408	川瀬町	31	93.9	2	6.1	33
新桜町	179	81.4	41	18.6	220	山崎町	123	85.4	21	14.6	144
東原町	241	85.8	40	14.2	281	大芝	1	100	0	0	1
						総計	11,317	80.3	2,769	19.7	14,086

資料：大河原町調べ（平成29年7月3日現在）



街並み（川東）



街並み（金ヶ瀬）